

## 第Ⅱ部

## 研究論文

# 生成 AI を活用したアクティブ・ラーニングに関する実践研究

～ ChatGPT 等及びスライド作成 AI 「Gamma」 を活用して ～

## Practical research on active learning utilizing the generated AI

～ Utilizing “ChatGPT” and the slide creation AI “Gamma” ～

法政大学 兼任講師 田神 仁

### 0 概要

生成 AI（以下、AI と標記する）である「ChatGPT」が 2022 年 11 月に登場して以来、「多くの仕事なくなる」「学校教育が変わる」「教師が要らなくなる」「生徒が考えなくなる」「人間が AI に取って代わられるシンギュラリティーがやって来る」など、世界中が大混乱になっている。それに伴い、文科省や教育委員会、各大学が AI に対する基本的な考え方や使用上の留意点に関する通知文を発出した。しかし、各界の不安をよそに、その後も「Bing」「Bard」「Gamma」「Tome」の他、画像や音楽を自動生成する AI 等、AI は日進月歩で進化を続けている。もはや、拒否反応を示している状態ではない。まさに「AI 津波」がすぐそこまでやって来ているのである。

そこで、本研究では、実際に AI を授業で活用してみ、その有効性や使用上の留意点などを明らかにすることにした。

### 1 研究主題設定理由

筆者は、これまでに、

① 2020 年 3 月 洗足学園音楽大学

「大学におけるアクティブ・ラーニングの実践研究－授業実践を通じた成果と課題－」

② 2021 年 3 月 法政大学

「オンライン授業のよさを生かしたアクティブ・ラーニングの実践研究－zoom によるグループワークを通して－」

③ 2023 年 3 月 法政大学

「教職科目『特別活動論』におけるアクティブ・ラーニングの実践研究－演習を通して－」という流れで、大学におけるアクティブ・ラーニングについて研究してきた。そこで、この流れを受けて、今回は標記の通り、AI を活用したアクティブ・ラーニングについて研究することとした。言うまでもなく、「アクティブ・ラーニング」と文科省が言う「主体的・対話的で深い学び」は同意語なので、本研究の成果は大学だけでなく、高校以下の校種においても生きるのではないかと考える。

### 2 研究目的, 研究仮説, 研究方法

#### (1) 研究目的

本研究の目的は、AI を活用したアクティブ・ラーニングの授業を行い、AI を活用するよさと課題を明らかにすることである。

#### (2) 研究仮説

本研究は、授業実践を通して次の仮説を検証する。

##### 【研究仮説】

AI を活用することで、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）がより一層充実したものになるであろう。

AI を授業に活用することで、授業に対する学生の関心を高めるだけでなく、アクティブ・ラーニングをより一層促進することができるかと期待される。併せて、実践を通して、AI を活用する上での留意点を明らかにする。

#### (3) 研究方法

##### ① AI に関する基礎研究

世の中に出回っている AI について YouTube 等で研究し、AI に関する基礎的な知識を得る。

##### ② AI に関する通知文の分析

テキストマイニングという AI を用いて各種通知文を分析し、AI を授業等に活用することについて文科省や教育委員会、大学はどのように考えているのかを明らかにする。

##### ③ 授業研究

実際に AI を使った授業を行ってみ、AI のよさと課題を明らかにする。

### 3 研究内容

#### (1) AI に関する基礎研究

Open AI 社が開発した「ChatGPT」が 2022 年 11 月に発表されて以来、次々と AI が世に出て来た。その活用法は様々であるが、学校教育への活用という視点から AI を分類してみた。

① 質問（「プロンプト」という）に対して応える AI 学生や生徒が質問や指示を投げかけると、それに対する回答や操作を行う AI である。「ChatGPT」「Bing」「Bard」などが有名である。1 回の質問で終わるのではなく、出された回答に対して「小学 3 年生にも分かるように説明して」「表にまとめて」「100 文字程度で要約して」「英語に翻訳して」「〇〇言語でプログラムを書いて」等、追加質問や追加指示が可能である。授業で活用する場合は、調べ学習の場面などで有効と考えられる。基本的には、音声入力も含めた文字データによるやりとりになるが、最近ではアドインをインストールすれば、数式処理やグラフ作成など高度な対応ができるようになった。質問の仕方によって回答の精度が変わったり、同じ質問をしても異なる回答が提示されたりすることがある。したがって、1 問 1 答ではなく、複数回のやりとりが必要であり、異なる AI に同じ質問を与え、回答を比較するなどして、回答の精度を高める工夫が重要である。「Bard」は、1 つの質問に対して常に 3 つの回答を出してくるので比較しやすい。また、複数の AI を同時に動作させるアドインである「Chat Hub」を用いれば、異なる AI に同時に同じ質問を与え、回答を比較することができる。ともすれば、生徒は一つの回答を鵜呑みにしがちであり、上記の手間を省いてしまう傾向が見られるので配慮が必要である。

## ② プロンプト不要の AI

「CAMEL」「AutoGPT」「BabyAGI」「AgentGPT」などがこれに当たる。検討する目標（ゴール）を与えるだけで、AI が勝手に対応策等を深掘りしていく。人間は、画面を通じてその過程を見ているだけで済む。例えば、「CAMEL」で、「H 大学に合格する」という目標を与え、登場する 2 人の AI を「Teacher」と「Student」に設定してスタートさせれば、この 2 人が勝手に「入学したい学部はどこか」「その学部の受験科目は何か」「一般受験以外で合格する方法はないか」「自分の苦手科目は何か」「苦手科目を克服するための勉強計画」・・・などと、勝手にやりとりを続けていく。無料バージョンでは途中で強制終了させられるが、有料バージョンでは、ストップキーを押さない限り、このやりとりが永遠に続く。ただ、入力する文章は日本語でもよいが、残念なことに回答や画面表示が全て英語なので極めて使いにくい。日本語表示が可能な AI が出るのを期待したい。

## ③ プレゼン用スライドを自動的に作成する AI

「Gamma」「Tome」が有名である。プレゼンのテーマを与えて生成ボタンを押すと、各スライドの項目が

自動的に作成される。例えば、「中学校における特別活動」というテーマを与えて生成ボタンを押すと、「特別活動とは」「特別活動の歴史」「学習指導要領における特別活動の位置付け」「特別活動の実践事例」「特別活動実施上の留意点」など、スライドの項目が自動的に作られる。表現や内容を修正したければこの段階で修正可能で、項目の追加や削除もできる。スライドの項目が確定したら、スライドを生成するボタンを押せば、項目に即したスライドが次々に作られる。その際、スライドのレイアウトや文章はもちろん、関連する写真や図などが自動的に決められていく。スライドが完成した段階でも、文章や写真が気に入らなければ修正や差し替えが可能である。その際、写真等の著作権侵害が気になる点であるが、写真の候補を表示させるときに「著作権無視」「著作権フリー」「商業利用可」の選択肢によって、制限に即した写真が表示される。

## ④ 画像を自動生成する AI

「Stable Defusion」「Leonardo AI」「Adobe Firefly」「Bing Image Creator」「Midjourney」「BRAV5」「Canva」「Chillout Mix」などが有名である。この AI に英語で条件を入力すれば、AI が写真や画像、動画などを自動的に作成してくれる。AI の種類の中では、この分野が一番進化していると言われている。しかし、筆者がこの種の AI に対して十分な知見をもっていないため、授業での活用にはまだ時間がかかる。

## ⑤ 音楽や音声を自動作成する AI

これも画像生成 AI と同じく、指示に従って自動的に音楽を作詞・作曲する AI である。「Soundraw」「MusicLM」「Mubert Text to Music」「SongR」「Premiere Pro」などが有名である。この種の AI も現時点では授業への活用が思い付かないため、本研究では扱わない。

いずれにしても、AI の回答や文章、作成した画像や音楽に対して、人間が作ったものか AI が作ったものかの判定は極めて難しく、生徒が AI を用いて宿題やレポートを解決した場合の問題点となる。このことは、どの通知文にも心配な点として明記されている。「その文章や画像などが AI によるものか人間によるものかの判定を AI に行わせる」という試みがあるようだが、実用化にはまだ時間がかかりそうである。

## (2) AI に関する各種通知文の研究

本研究では、AI に関する 2 種類の通知文について分析を行った。一つ目は、小中高校長への通知文、もう一つは、大学における活用に関する通知文である。そして、本研究では、それぞれ文科省の通知文と東京

都教育委員会（以下、都教委と書く）、法政大学の通知文と比較しながら分析した。分析手法は、「AI テキストマイニング」というAIを用いて2文書を比較した。

※ 巻末の資料には大学関係の通知文の分析結果のみを掲載する。

### ① 小中高校長への通知文の比較

（添付資料なし）

#### ○ 単語分類

「AI テキストマイニング」で分析した結果、文科省と都教委に共通して多く出現している単語は、「AI」「使う」「考える」「踏まえる」「教育」「含む」「活動」「作る」などである。共通して出て来るといっても、例えば、「考える」を原文で確認してみると、文科省では「これからの時代に必要となる資質能力をどう考えるか」、都教委では「児童・生徒が自ら考える力を育成することが重要」と主語は異なっている。また、文科省では「情報」「学習」「判断」など学習指導要領に関連した単語が多いのに対し、都教委では「できる」「求める」「可能性」「課題」「留意」など、AIを活用する場面での単語が多い。

#### ○ 特徴的な単語

文科省では「近い」「学ぶ」「力」が多く、都教委では「書く」「近い」「深い」「正しい」が多い。ここでも、都教委の方が、よりAIを活用する場面での単語が多いことが分かる。

#### ○ ポジティブ・ネガティブな単語

文科省、都教委ともネガティブな単語が多く、AIの取扱いについて警戒心や不安を抱いていることが分かる。

### ② 法政大学 & 武蔵野大学と文科省通知文の比較

#### ○ 単語分類（資料1）

文科省には「望ましい」「踏まえる」「広い」「取りまとめる」「図る」「進める」など、小中学校長への通知文に比べてAIを利活用していこうという姿勢が見られる。一方、法政大学と武蔵野大学では「新しい」「くださる」「乏しい」「厳しい」「強い」「課題」など、より積極的に利活用する上での注意や課題を示している。

#### ○ 特徴的な単語（資料2）

文科省では「望ましい」「踏まえる」「広い」「考える」「行う」が多く、法政大学と武蔵野大学では「新しい」「くださる」「難しい」「厳しい」などが多く、この資料でも大学の方が実際に利活用する上での注意や課題を示している。

#### ○ ポジティブ・ネガティブな単語（資料3）

小中高校長宛と同様、両者ともにネガティブ気味な

単語が多く、積極的に利活用させつつもレポートの評価など、使用上の留意点を明確にする重要性が現れている。

### （3）授業研究

#### ○ 教職科目における授業研究

本研究においては、AIを次の2つの方法で活用した。

#### 【春学期】

① グループ協議でメンバーの一人として活用

#### 【秋学期】

② 調べ学習及びプレゼン資料作成において活用

### ア 実施科目及び受講生人数

上記①：「数学科教育法(1)」	19名
「特別活動論」	51名
上記②：「生徒指導・進路指導論」	48名
「数学科教育法(2)」	25名
「教職実践演習」	24名
計	167名

### イ 授業内容の工夫

上記①では、「授業にAIを活用することは可能か？可能なら、実施上の留意点は何か？」というテーマでグループ協議を行い、その際にAIをグループのメンバーの一人として扱う。

上記②では、40分間で「いじめ」「不登校」「児童虐待」「LGBTQ」、「GIGA スクール構想」「STEAM教育」「令和の日本型学校教育」「教員の働き方改革」「観点別評価」のうちの1テーマについて班で調べ、スライドを作成して5分間のプレゼンを行う。調べる段階とスライドを作成する段階でAIを活用する。

### ウ 授業方法の工夫

上記①では、グループで意見交換をする中で「ChatGPT」「Bing」「Bard」のいずれかの回答を参考にしながら議論を進める。

上記②では、スライド自動作成AI「Gamma」を用いて、プレゼンデータを作成する。その際、必要に応じて「ChatGPT」「Bing」「Bard」を用いてスライドの内容を補充する。

授業は、PC持参の対面授業とした。100分間という授業時間の関係で、8班構成となる40名を超える授業ではzoomのブレイクアウトルームを用いて4班ごとの2会場同時に発表会を行う。それ故、ハウリング防止のため当日はイヤホンも持参させる。

## 4 授業研究による研究仮説の検証

### (1) 授業の状況

#### ① グループ協議での AI 活用

「数学科教育法(1)」の授業では、「AIを数学の授業に活用することは可能か?可能なら、使用上の留意点は何か?」というテーマについて、また「特別活動論」の授業では、「AIを特別活動に活用することは可能か?可能なら、使用上の留意点は何か?」というテーマについてグループで協議する際、AIもメンバーの一人に入れて話し合わせた。AIは、「ChatGPT」「Bing」「Bard」のうちから好きなものを選ばせた。その結果、どの班も「活用可能」と考え、使用上の留意点についての意見交換が中心となった。話し合いながら、提出課題に Word で記入させた。

#### ② 調べ学習及びプレゼンデータ作成作業

いずれの授業においても学生がAIに関する知見をもっていなかったため、AIに関する説明動画(約15分間)を見せてから調べ学習の作業に入った。そのため調べ学習及びプレゼンデータ作成の時間が40分間しか取れなかったが、どの班も時間不足にはならなかった。それは受講者が理系の学生であり、PCやICT機器に慣れていたことと、まず「Gamma」でスライドのアウトラインを作成し、不十分な部分を「ChatGPT」などのAIで補充するよう工夫したからと考えられる。一般的には、40分間では短いであろう。そこで、AIの説明動画を事前に配布し、授業当日までにAIについて学習し、サインインなどの準備をさせておくことが望ましいと分かった。しかし実際は、学生の作業は極めて円滑に進んだ。それは、学生間の会話は直接対面で行い、ファイルのやりとりはzoomのブレイクアウトルーム内のChat機能を用いたからである。今回の提出課題は、紙ではなくWordデータに入力するようにしたが、それにより学生がPC画面の中でプレゼンデータを作りながら課題にも記入できたことによると思われる。

#### ③ 発表会

発表会は、1会場の場合は全体で行ったが、受講生人数の関係から2会場同時に行う場合は、ハウリング防止のために全員がイヤホンを使って行った。このことにより、座席を移動することなく円滑に発表することができた。また、他会場の音声が発表の邪魔をすることもなかった。イヤホン持参は、対面授業においてzoomを利用した同時発表会には不可欠であると分かった。また、他班の発表を聞きながら課題(Wordデータ)に記入する方法も円滑さに寄与した。なお、各班

が作成したプレゼンデータは、授業後に受講生全員に配布し、共有した。

※ 学生が授業で作成したプレゼン用スライドの抜粋を【資料6】【資料7】として巻末に掲載しておく

### (2) 提出課題の感想欄から見た検証

※ 巻末の資料掲載は、秋学期授業のみ。

#### 【春学期】

春学期・秋学期とも全講座の提出課題に「授業の感想・質問」欄を設けてあるので、そこに書かれた内容からAIに対する学生の反応を分析した。分析方法は、AIテキストマイニングを用いた。

#### ○ ワードクラウド

ワードクラウドとは、提出課題にある感想・質問欄に書かれた単語の出現頻度を分析し、頻度の高さを文字の大きさと表したものである。これによれば、「思う」「できる」「感じる」「使う」「授業」「活用」「考える」「必要」「利用」「分かりやすい」「面白い」「良い」といった肯定的な単語が多いことが分かる。この授業ではAIについて学生がよく知らなかったため、初めてAIを使った感動がよく現れている。

#### ○ 共起キーワード

共起キーワードとは、ワードクラウドで現れた単語について出現パターンの似たものを線で結んだ図であり、出現頻度は円の大きさと表されている。つまり、ワードクラウドで表示された単語間の関連性を図にしたものである。共起キーワードによれば、「生徒が考える際にAIを用いることは可能である」「近い将来便利な環境になる」「生徒が学ぶ上で教師がわかりやすい環境を与えることができる」「生徒が学ぶ上で、新しく面白く良い環境・機会となる」という肯定的な意見が多い反面、「間違える可能性が怖い」「AIに頼ってしまう」「メリットは多いが課題も多い」という懸念も見られた。

#### 【秋学期】

#### ○ ワードクラウド(資料4)

資料4によれば、春学期同様、「思う」「感じる」「できる」「使う」「授業」「活用」「考える」といった肯定的な単語が多いことが分かる。つまり、今回初めてスライド作成AIを体験した学生にとって、AIを授業で活用することに対して希望をもてたと考えられる。

#### ○ 共起キーワード(資料5)

資料5によれば、資料4で表示された大きな文字の単語は、互いに強い関連性をもっていることが分かる。「AIの便利さや有用性を感じた」「生徒が授業中に考える上で活用できる」「プレゼン資料を作成する上で便利」「ChatGPT」や「Gamma」を使ってスライドが

作れることに驚いた」「教員にとってもいいツールである」「班でまとめるのに分かりやすい」「使いやすいアプリである」など肯定的な内容が読み取れる。これらは、主にスライド作成 AI である「Gamma」に対する感想である。これらの授業は、9月末から10月にかけて実施したため、多くの学生が既に「ChatGPT」などを使っており、プロンプト（質問）のやり取りによって AI を活用する上での留意点については承知していた。

最後に、授業に関する感想の原文から幾つか象徴的なものを挙げておく。（原文のまま抜粋）

#### 【春学期】

- AI が発達することで自分たちにメリットがある反面、使い方を間違えると SF 映画のように人工知能に人間が支配されてしまうという可能性があるのが怖いと思った。教育に AI を導入するためには程度のルールや情報リテラシーについても指導しないといけないと思う。
- 実際に使ってみると与えた質問に対し簡潔にわかりやすく、時に具体例を交えて解答してくれるので教師の説明より分かりやすいということも十分あり得ると思った。しかし、留意点も多数あり、AI を活用して生徒に考えさせる（生徒が考えられる）ような刺激を与える授業をするためには教師の役割を再考する必要があること、生徒間の交流を通して多様な考えを知る、自分の考えを表現するという学校だからできることもより大切になっていくことが考えられた。
- 気軽に質問しやすいという点ではいいツールだと思った。これを何歳くらいから使い始めるのが難しい問題だと思った。
- 生徒に AI を自由に使えるような環境にしまうと、計算や考える過程などを全部 AI に行わせてしまい、考える力が育たなくなるので、ある程度は教育目的での利用は制限すべきだと思った。

#### 【秋学期】

- GAMMA が生成した発表スライドの質がかなり高く驚いた。
- Gamma を初めて利用したが、とても便利だと感じた。ただ、英語を直訳しただけのものや信憑性に欠けるものも多いので、教育という分野においては慎重に使用する必要があると思った。
- 苦労して作っていた資料がボタン一つでこうも簡単に作れてしまうことに驚いた。しかし、抽象的な内容が多い上に、自分で資料作成を行って

いないことから資料の読み込みが必要であるなど感じた。実際、今日の授業で話すときに事前に資料の内容を把握できていなかったため、文章構成がうまく作れていないままの発表となってしまうと、いい発表ができなかった。

- 40分という決められた時間で役割分担をしながらうまくスライド作成及び発表をすることが出来ました。スライド作成 AI を初めて使ったが、想像の数倍も精度が高く、凄さとともに恐ろしさを感じました。

### （3）研究仮説の検証

上記の結果から、授業実践を通して次の通り研究仮説が検証された。

AI を活用することで、アクティブ・ラーニングがより一層充実したものになる。
--

ただし、次の点が実施上の留意点として明らかになった。

- AI が数秒で回答を出してしまうため、生徒が自身で考えることをしなくなる恐れがある。
- AI は人間と同じで常に正しいとは限らないはずなのに、生徒は AI が出した回答を鵜呑みにしがちである。
- 教師にとっては、生徒が考えたことなのか AI が出力した回答なのかを判断できない。つまり、評価の仕方が難しい。
- AI を用いてプレゼン資料を作成すると、その内容が発表者自身のものになっておらず、うわべだけの発表になってしまう恐れがある。
- AI は知識を与えてくれるが、ものの見方・考え方は教えてくれない。
- これまでは自分で考えて問題を解く力の育成が求められてきたが、これからは AI の出した回答が正しいのかどうかを判断する力（critical thinking）の育成がより一層求められる。
- 授業で活用する場合は、AI に関する説明動画などを事前に配布して視聴させておくなどして、時間短縮を図ることが重要である。
- 全員が PC を持参しているため、提出課題も PC で入力する方式の方が効率的である。

## 5 研究のまとめ

### （1）研究成果と今後の課題

#### ① AI について

「ChatGPT」が発表されて以後、AI の進化は目を見張るものがあるが、回答の精度、検索根拠の明確化、

日本語対応、著作権問題など、活用する上で機能的な課題がある。そして、特に課題として大きいのは、AIに対する教員の意識改革、授業でどのように活用できるかという実践例の不足、活用上の留意点の明確化、生徒一人1台端末環境整備など、AIを受け入れる側の体制である。

## ② 授業について

AIを活用すれば、学生や生徒の授業に対する意欲高揚が図られるだけでなく、調べ学習やグループ協議などのアクティブ・ラーニングの充実が期待できる。一方、大学での100分授業ならともかく、小中高校での45分～50分授業でのAI活用に当たって、どのように効率的かつ効果的に行うかの検討が今後速やかに必要になる。併せて、zoomやプレゼンなどのICT環境と対面授業をうまく融合した授業設計も重要な課題である。

## 6 引用文献・参考文献等

### (1) 引用文献・参考文献 (YouTube 等)

- 生成AIを活用する上での基本的な考え方 (文科省) Bing 動画
- ChatGPTとBardとは? 使い方 (日本語) 2023年版【音速パソコン教室】 Bing 動画
- (296) 話題の対話型AI「ChatGPT」登録と使い方! 実際に使いながら10分程度でカンタン解説 - YouTube
- 「ChatGPT」に対抗するGoogle社の対話型AI「Bard」がついに日本語対応! 巻き返しのチャンス到来, 未体験の対話体験へ! (INAWAKU TV) Bing 動画
- 【どっちが使える?】テキスト生成AI『Google Bard』は〇〇がすごい! 『ChatGPT』と徹底比較! (mikimiki web スクール) Bing 動画
- (296) 【凄すぎ!】このAIサイトが凄すぎる! 【絶対使え!】 - YouTube
- CAMEL.aiの使い方: AIとAIが勝手に会話して課題解決の提案をしてくれる | シニアから親しむWeb3.0 (tinto-eco.com)
- AIエージェント「Camel」 | AutoGPTとの違いや導入方法を徹底解説! | WEEL
- AI搭載の神ツール「Gamma」の使い方と特徴を徹底解説! ドキュメントが自動でプレゼン資料に | SELECK [セレック]
- 【完全網羅】Tome (トーム) AIの使い方を解説! Stable Diffusionで画像生成もできる! (ai-writing.tech)

### (2) 使用アプリ・サイト等

#### ① AI

- ChatGPT (Open AI 社)  
ChatGPT (openai.com)
- Bing (Microsoft 社)  
Microsoft Edge 内蔵 (その後 Copilot と改名)
- Bard (Google 社)  
Bard (google.com)
- Gamma (Gamma AI, Inc.)  
Gamma
- ユーザーローカルテキストマイニング  
<https://textmining.userlocal.jp/>

#### ② ビデオ会議システム

- zoom Ver.5.16.6 (24712) (zoom 社)

#### ③ 文書作成 (ワードプロセッサ)

- Microsoft Word (Microsoft 社)

#### ④ ブラウザ

- Microsoft Edge (Microsoft 社)

#### ⑤ 学習支援システム

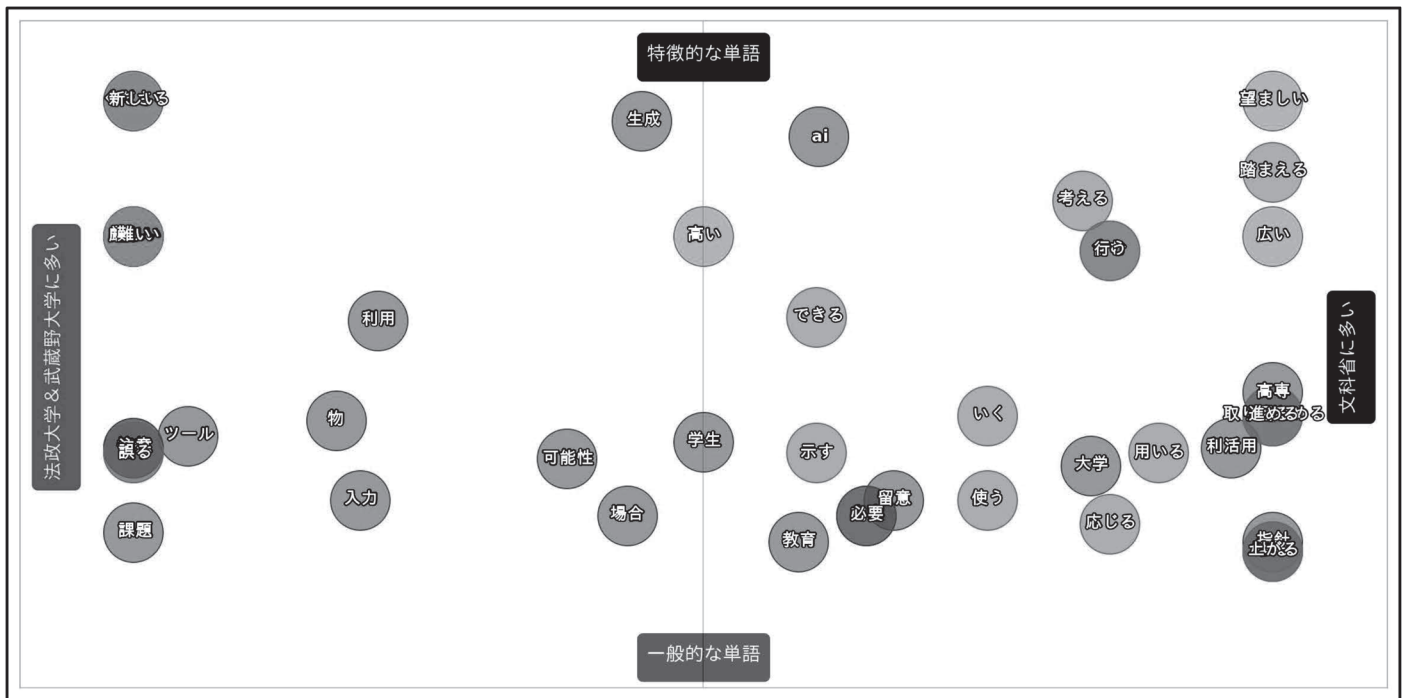
- Hoppii (法政大学)
- Muscat (武蔵野大学)



【資料1】 単語分類（法政大学&武蔵野大学 vs 文科省）

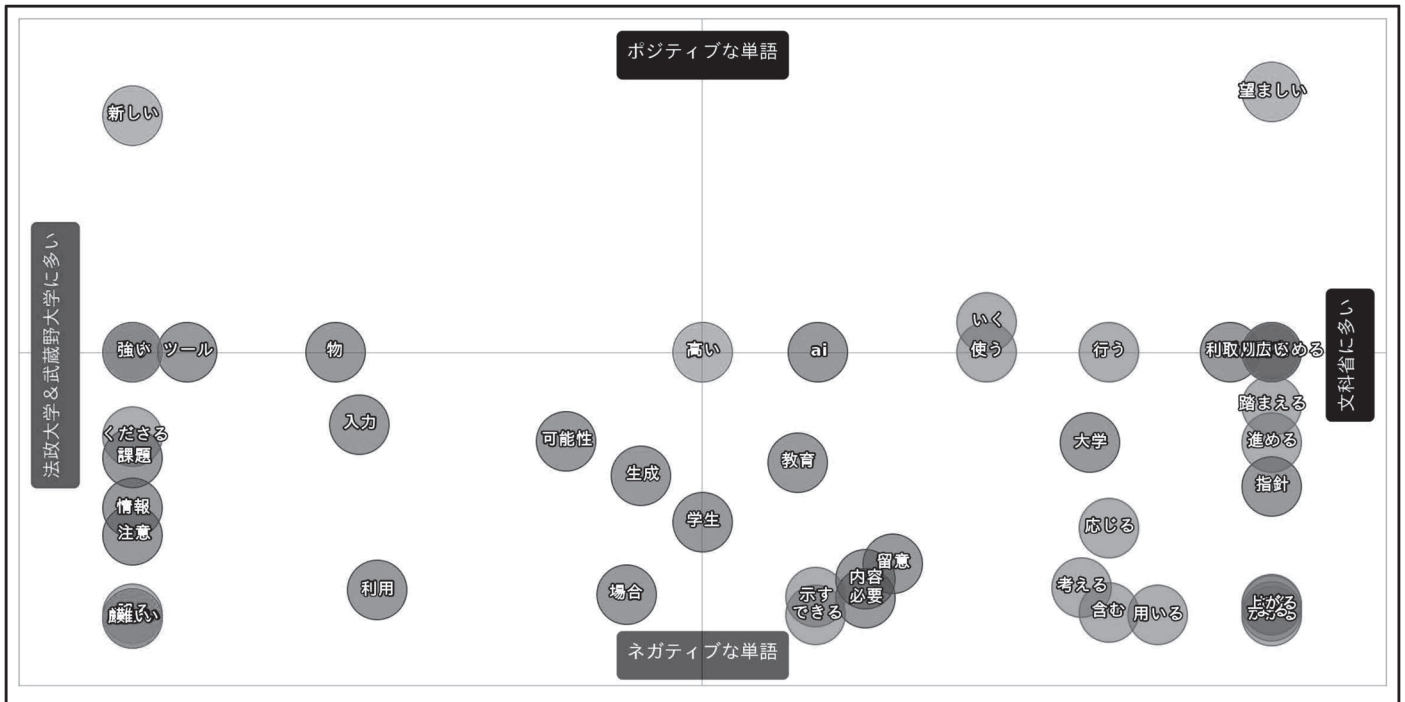
単語分類				
2つの文書に出現する単語を、それぞれどちらの文書に偏って出現しているかでグループ分けし、表にしています。グループ中の単語は出現頻度が多い順に並ぶ傾向があります。				
法政大学&武蔵野大学にだけ出現	法政大学&武蔵野大学によく出る	両方によく出る	文科省によく出る	文科省にだけ出現
新しい くださる 乏しい 厳しい 強い 難しい 情報 注意 出す 誤る 課題 促す 求める 該当 制限 意匠 いたす しまう それら 問題 登録商標 設定	利用 物 ツール 入力 行為 侵害 授業 事項 データ 使用	生成 ai 高い できる 学生 示す 可能性 内容 必要 場合 教育 知る 評価 努める 生じる 避ける 既存 著作物 レポート 活用 個人情報	考える 含む 行う いく 利活用 用いる 大学 使う 留意 応じる 対応 出力 文章 重要 まとめる 学修	望ましい 踏まえる 広い 高専 取りまとめる 図る 進める 指針 おる かかる よる 上がる 係る 反す 取り扱う 取る 向ける 含める 変える 定める 属する 当たる 得る 気付く 深める 満たす 生まれる 立つ 続く 繋がる

【資料2】 特徴的な単語（法政大学&武蔵野大学 vs 文科省）

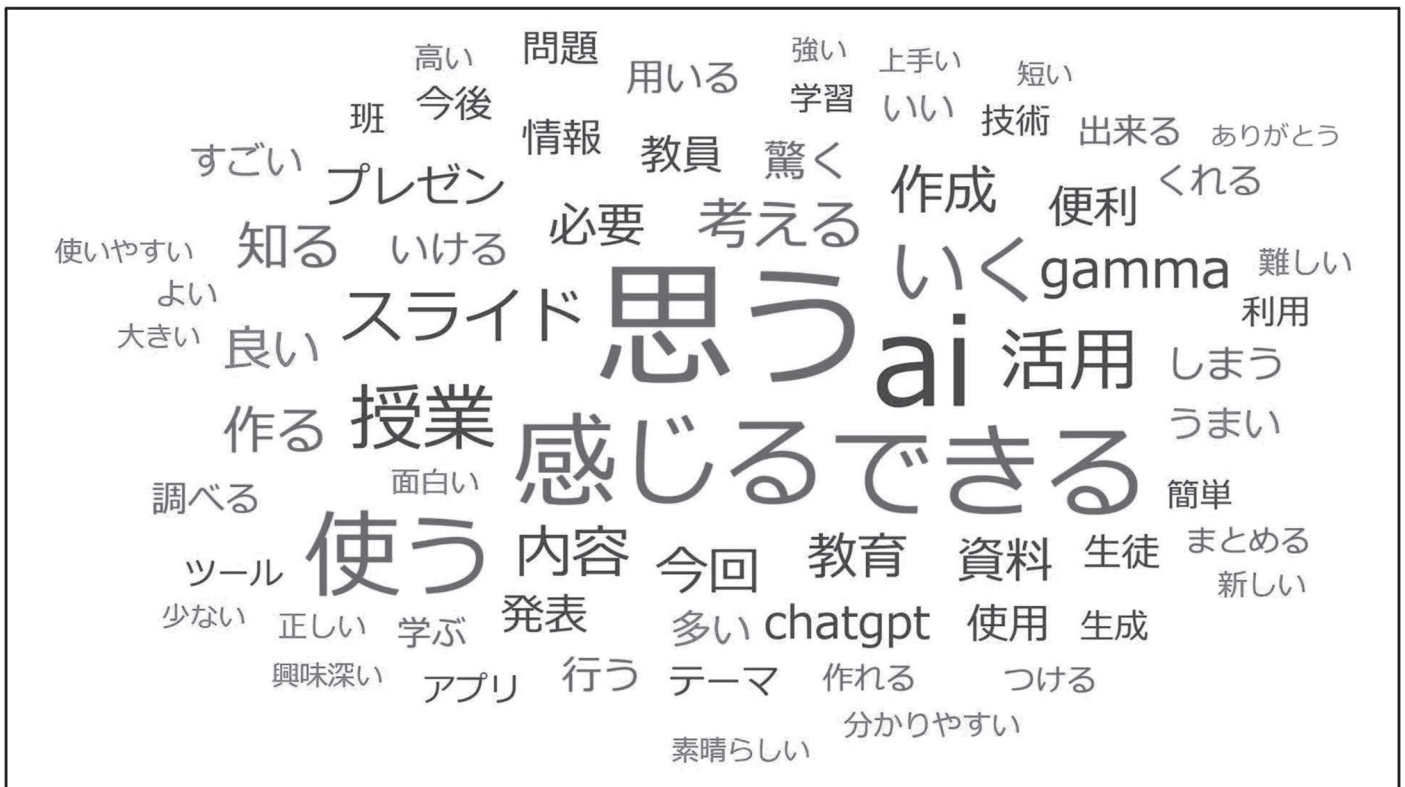




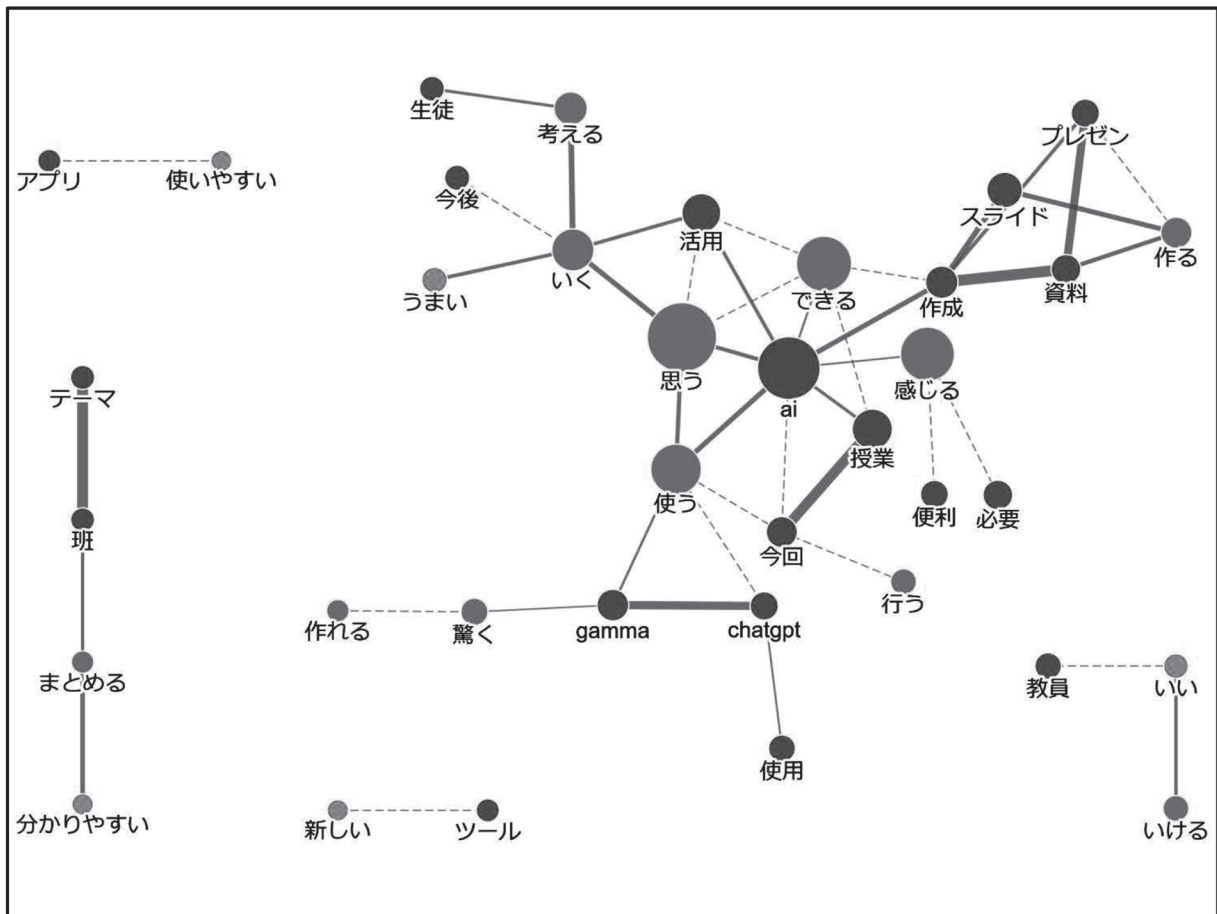
【資料3】 ポジティブ・ネガティブ単語（法政大学&武蔵野大学 vs 文科省）



【資料4】 秋学期 授業感想 ワードクラウド



【資料5】 秋学期 授業感想 共起キーワード



【資料6】 学生作成プレゼンデータ① (抜粋)

不登校、どうすればいいの?

学校いきなさい

アンタッ... 親に向かってなんて口を

## 不登校とは

不登校は、子供や若者が学校に通わない状況を指します。一部の主な理由には、学校への不安やいじめ、家庭の事情、身体的または精神的な問題があります。この問題は、本人にとって深刻な影響を及ぼすことがあり、早期の対応が求められます。

Made with Gamma



## 児童虐待の背景

### 1 家庭内のストレス

経済的な問題や家族内の葛藤が原因となり、児童虐待が生じることがあります。

### 2 育児スキルの不足

育児スキルの不足は、親や保護者が適切な育児方法を理解せず、ストレスを解消するために暴力を使うことにつながる可能性があります。

### 3 依存症

親や保護者のアルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症は、家庭内の不安定さを増加させ、児童虐待のリスクを高めることがあります。

## 発達障害のある児童生徒への支援

——担当する授業内容の検討を視野に入れて——

法政大学キャリアデザイン学部 / 社会学部兼任講師 遠藤 裕子

### 1. 課題設定

筆者が担当する教育心理学では「発達障害の理解」「発達障害の支援・指導」、教育相談では「発達障害に関する相談」をテーマとして発達障害に関する授業を行なっている。2007年(H.19)に文部科学省(以下、文科省)が特別支援教育の本格実施を打ち出してから16年が経過した。この間の「特別支援教育をめぐる制度改正」を資料1の表①に示す。このように法制度の整備を含めてさまざまな動きがあったことやこの間の研究で得られた発達障害に関する知見など、教職課程における授業内容の検討を視野に入れて、発達障害のある児童生徒への支援に関連した事柄を整理しておく。

### 2. 発達障害のある児童生徒は増えたのか

#### ① 通級や特別支援学級の利用

文科省による「令和2年～3年度 特別支援教育に関する調査結果」にある「令和2年度 通級による指導実態調査」の結果によると、発達障害の児童生徒数(小・中・高等学校)は、2006年度(H.18)の時点では約7000人であった。2006年度は発達障害を通級による指導対象として学校教育法施行規則に規定し、以前は主に「情緒障害」の通級による指導の対象となっていた「自閉症」も対象として明示された年度である。発達障害をもつ2019年には7万人を、2020年には9万人を超えていて、数字だけ見ると13年(2006年から2019年)で10倍に増えていることとなる。ただし、通級の利用においては「医師など専門機関からの診断書」を必須としないことから、この数字のすべてを「発達障害のある児童生徒」とすることはできないと言える。

特別支援学級教員の勤務するAさんへのインタビューの記録を資料2に示す。Aさんは特別支援学級の在籍は増えていると言う。例えば、勤務校のある地区の合同の体育的行事への参加者は2007年度・2008年度は700人前後であったが、2023年度は1500人であった。参加しない学校もあり数字はおおよそのものであるが、この10年間で倍増したと言うことができる。ただし通級利用と同様の理由で、この数字のすべてを「発達障害のある児童生徒」とすることはできない。

#### ② 発達障害の可能性があると考えられる児童生徒の割合

2022年(R.4)に「通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」が行われた。この調査は2002年・2012年と10年おきに実施されており、「推定値6.3%」という2002年の調査結果から発達障害という言葉や概念が急激に広まることとなった。今回の調査では「小学校・中学校においては推定値8.8%、高等学校においては推定値2.2%であった」としている。高等学校については、公立の全日制又は定時制に在籍する1～3年次のみを対象としている。

この調査は学級担任などの見立てをもとに行われており、公表資料には「発達障害のある児童生徒数の割合や知的発達に遅れがある児童生徒数の割合を推定する調査ではなく、学習面や行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合を推定している調査である」「増加の理由を特定することは困難であるが、通常の学級の担任を含む教師や保護者の特別支援教育に関する理解が進み、今まで見過ごされてきた困難のある子供たちにより目を向けるようになったことが一つの理由として考えられる」とある。

#### ③ 高等学校における特別支援教育

高等学校(以下、高校)においても2007年から特別支援教育が始まり、2018年(H.30)には通級による指導が制度化された。2022年度(R.4)の「通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」において、高校は「推定値2.2%」となっている。また通級利用は2018年度(H.30)は508名、2019年度(H.31・R1)は787名、2020年度(R.2)は1300名であった。公表資料では「高等学校においては、学習面、各行動面それぞれにおいて、高等学校第1学年と中学校第3学年を比較するとさらに減少しており、高等学校第1学年から高等学校第3学年にかけて割合はほぼ横ばいである。高等学校については、高校入学に際して入学者選抜が実施されていることや全日制・定時制・通信制といった課程がある。そして、特色ある学科(普通科・専門学科・総合学科)が設置されており、多様な入学動機や進路希望など様々な背景をもつ生徒に対応できる現状が本調査の高等学校の結果と関係しているのではないかと考えられる。そのため、小学校・中学校と高等学校は切り分けて考える

必要がある。」と考察されている。

### 3. 「発達障害」と間違えられる子どもたちから学ぶ

小児科医である成田（2023）は、医師としての仕事や自身が主宰する「子育て科学アクシス」（2014年に開始した発達障害、不登校、引きこもりなど、さまざまな不安や悩みをかかえる親子・当事者の支援事業）での35年におよぶ活動の中で「発達障害と同じような症状を見せながらも、正確には診断基準に当てはまらない事例」を何例も見てきたと言う。成田はそれらの事例を「発達障害もどき」と名づけて、家庭環境にとどまらず、教育現場での誤解や無理解あるいは理解はしていても先生の手が十分に回らないなど広く環境が整っていないことが原因であるとしている。さらには環境を整えることで症状が消失あるいは軽減した事例が紹介されている。

### 4. 発達の特性の考え方

本田（2022）は、精神科医として30年以上の臨床経験の大半を発達障害の診察に費やしてきた。乳幼児期から成人まで、さまざまなライフステージの方たちに会い、幼児期から成人期まで継続して診療しているケースが多数ある（以上、引用）。本来発達の特性の強弱はグラデーションであり誰でもが持ち合わせている。本田は特に特性の重複や強度に注意を向けることが重要性を指摘し、弱くあらわれている特性を「AS」（ちょっとASD、自閉スペクトラム症傾向）や「ADH」（ちょっとAD/HD、注意欠如/多動症傾向）として、生きづらさが理解されにくいと説明している。いわゆる「グレーゾーン」という言い方はこれにあたると思われる。

教育相談の授業で本田（2022）による事例を用いて事例検討を行った。ケースの概要は次の通りである。小学校4年生男児（以下、Cさんとする）時間にルーズで生活全般にだらしなさが目立つ。ゲームが好きで、大好きなゲームで遊びはじめると熱中しすぎて切り替えが悪くなることもある。ゲームのことで頭がいっぱいになって、やらなければならないことが頭から吹き飛んでしまい、遅刻をしたり、約束を忘れてしまったりする。親は「ゲームは1日に何時間」というルールを作ろうとするが、守れるのはせいぜい一日くらいで、同じ失敗を繰り返すといったことが見られる。ゲームに全身全霊をかけているかという点、そうではなくて、ゲーム機の電源をつけたまま、他の遊びを始めてしまうというようにムラっ気が見られる。

本田はこの事例を「総合的にみて、発達障害のようではあるが、ASDともAD/HDとも言い切れず、どちらの特性も存在している。もしもCさんの生活上の支障が大きくなって本人や親が困り果てて発達障害の専門外来にかかった場合、診断はASDになることもあれば、AD/HDになることもある」と解説している。

授業でこの事例を提示した際、複数のグループから「小4の頃といえば、自分もCさんと同じような状態だった」という発言があった。教員の立場からは「宿題や約束など、優先しなくてはいけないものを済ませてからゲームをする習慣をつける」といった生活面の改善のアドバイスをするとということになるだろう。

### 5. 特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育

1994年に「特別なニーズ教育に関する世界会議：アクセスと質」に於いて採択されたサラマンカ宣言に「インクルーシブ教育 (inclusive education) のアプローチを促進するために必要な基本的政策の転換を検討することによって、「万人のための教育 (Education for All)」の目的をさらに前進させるために、学校がすべての子どもたち、とりわけ特別な教育的ニーズをもつ子どもたちに役立つことを可能にさせるため」という一文がある。特別な教育的ニーズには「障害児や英才児、ストリート・チルドレンや労働している子どもたち、人里離れた地域の子どものたちや遊牧民の子どものたち、言語的・民族的・文化的マイノリティーの子どものたち、他の恵まれていないもしくは辺境で生活している子どもたちも含まれることになる」としている。

2001年にWHOがICF (International Classification Disability Functioning and Health) を総会で採択した。「これまでの「ICIDH」が身体機能の障害による生活機能の障害（社会的不利を分類するという考え方が中心であったのに対し、ICFはこれらの環境因子という観点を加え、例えば、バリアフリー等の環境を評価できるように構成されている。このような考え方は、今後、障害者はもとより、全国民の保健・医療・福祉サービス、社会システムや技術のあり方の方向性を示唆しているものと考えられる」とある。ここにもインクルーシブの考え方が反映されている。

この流れの中で国内においては、2007年には「特別支援教育の本格実施」、2012年には「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進」が打ち出された。また2013年には「障害者差別解消法」（2016年施行）が成立し、「特別な教育的ニーズのある児童生徒の対応」は共生社会を目指してすべての児童生徒の成長・発達を保障する中で包括的に行うこととなる。

## 6. 考察

### ① 法制度の整備を含めてさまざまな動きがあったことやこの間の研究で得た発達障害に関する知見などをふまえて

発達障害の診断は「DSM - 5」(アメリカ医学学会作成精神疾患の分類と診断の手引き)に照らし合わせてつけられる。乳児期あるいは幼少期より「発達の特徴」が強くあらわれて早くから療育を受ける例もたくさんある。教育現場においても「診断がついている」あるいは「検査を受けたが診断はついていない」などの情報が保護者から提示されることもめずらしいことではなくなったが、「発達障害の診断がついている児童生徒」が増えたかどうかは判断できない。2 - ②で述べた通り、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒については推定値を見る限り、2002年の調査では6.3%、2012年は6.5%、2022年は8.8%と増えている。「通常の学級の担任を含む教師や保護者の特別支援教育に関する理解が進み、今まで見過ごされてきた困難のある子供たちにより目を向けるようになったことが一つの理由として考えられる」と考察されているように、推定値が増えた大きな要因になっていると言える。

インクルーシブ教育推進においては基礎的環境整備と合理的配慮の二つの重要なポイントがある。まずは基礎的環境整備である。特別な教育的ニーズのある児童生徒にとってなくてはならない支援はすべての児童生徒にとってであると便利に活用できる支援と考える。例えば、エレベーターは肢体不自由があって車椅子を使用している人にとっては必要なものであるが、足を骨折したとき、(通常はエレベーターを使用していなくても)あるととても助かる。ルビをふったプリントは識字障害のある児童生徒にとってはなくてはならないが、誰でも使用可としておけば、学習につまずきのある児童生徒の助けになることもある。このように「すべての人に役立つ」という視点をもつことが第一歩であると考える。

### ② 教職課程の授業の内容検討を視野に入れて

学校現場では発達障害があると診断がついている場合はもちろんのこと、特別な教育的ニーズがあるとの見立てをした場合、支援を考えていくことになる。2007年の特別支援教育本格実施から16年が経過した。この間に、公立の小中学校を中心に、特別支援教育コーディネーターの配置、個別の教育支援計画作成、支援会議実施など諸々の整備が進んできた。しかしながら「インクルーシブ教育推進」を打ち出してはいるが、クラス定数(40人学級)ひとつをとっていても条

件整備が進んだとは言い難く、個々の学校や教員の努力に委ねられている状況は変わっていないと考えられる。

担当する授業へのリアクションでは「たくさんの生徒を担当しなくてはならない中で、個々への対応を十分にできるかどうか」など不安の声が多く寄せられる。この声にどう答えていくか、授業者(筆者)にとっていつも大きな課題となっている。特別な教育的ニーズに関する教育については、小池(2019)の研究ノートに学ぶところが大きかった。教育心理学や教育相談の視点からどう学んでいくか、今後さらに検討を深めていく必要があると考えている。

### 参考文献 参考資料

- 成田奈緒子 2023 「発達障害」と間違えられる子どもたち 青春出版
- 本田秀夫 2022 「多数派」「標準」「友達」に合わせられない子どもたち SB 新書
- 本田秀夫 2018 発達障害 生きづらさを抱える少数派の「種族」たち SB 新書
- 小池雄逸 2019 発達障害等のある子どもへの理解を深めることの必要性を学ぶこと 「特別な教育的ニーズの理解と支援」の授業の実践記録 法政大学 教職課程年報 2019 年度 Vol.18 pp.55-pp.62
- 文部科学省 HP  
特別支援教育をめぐる制度改正 \*最終閲覧 2024年1月4日  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/001.htm)
- 文部科学省 HP  
通常学級に在籍する特別な教育支援を必要とする児童生徒に関する調査結果(令和4年)について \*最終閲覧 2024年1月4日  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/2022/1421569\\_00005.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2022/1421569_00005.htm)
- 文部科学省 HP  
令和2~3年度 特別支援教育に関する調査結果について \*最終閲覧 2024年1月4日  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/1402845\\_00005.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1402845_00005.htm)
- 文部科学省 HP  
障害者施策を巡る国内外の動向 \*最終閲覧 2024年1月4日  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1396563.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1396563.htm)
- 厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部企画課 HP  
「国際生活機能分類-国際障害分類改訂版-」(日本語版)の厚生労働省

ホームページ掲載について

\*最終閲覧 2024 年 1 月 4 日

<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>

国立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 HP

サラマンカ宣言

「特別なニーズ教育に関する世界会議：アクセスと質」  
(ユネスコ・スペイン政府共催、1994 年) に於いて採択

[https://www.nise.go.jp/blog/2000/05/b1\\_h060600\\_01.html](https://www.nise.go.jp/blog/2000/05/b1_h060600_01.html)

## 資料

### 1. 表① 特別支援教育をめぐる制度改正

「文科省 特別支援教育をめぐる制度改正」を元に作成

2007 年 平成 19 年 4 月	特別支援教育の本格的実施（平成 18 年 3 月学校教育法等改正）	・「特殊教育」から「特別支援教育」へ ・盲・聾・養護学校から特別支援学校 ・特別支援学校のセンター的機能 ・小中学校における特別支援教育等
2011 年 平成 23 年 8 月	改正障害者基本法施行	・十分な教育が受けられるようにするため可能な限り共に教育を受けられるよう配慮しつつ教育の内容及び方法の改善・充実 ・本人・保護者の意向を可能な限り尊重 ・交流及び共同学習の積極的推進等
2012 年 平成 24 年 7 月	「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進」（中央教育審議会初等中等教育分科会報告）	・就学相談・就学先決定の在り方 ・合理的配慮、基礎的環境整備 ・多様な学びの場の整備、交流及び共同学習の推進 ・教職員の専門性向上等
2013 年 平成 25 年 9 月	就学制度改正（平成 25 年 8 月学校教育法施行令改正）	・認定就学制度を廃止、総合的判断（本人・保護者の意向を可能な限り尊重）による就学制度等
2014 年 平成 26 年 1 月	障害者権利条約批准	・インクルーシブ教育システムの理念・合理的配慮の提供等
2015 年 平成 27 年 4 月	高等学校・特別支援学校高等部における遠隔教育の制度化（学校教育法施行規則等改正）	・病気療養児を対象とした特例制度の創設等
2016 年 平成 28 年 4 月	障害者差別解消法施行（平成 25 年 6 月制定）	・差別の禁止、合理的配慮の提供等→障害者差別解消法に基づく文部科学省所管事業分野の対応指針の策定（平成 27 年 11 月）
2016 年 平成 28 年 6 月	改正児童福祉法施行（公布日施行）	・医療的ケア児の支援に関する保健、医療、福祉、教育等関係機関の連携の一層の推進
2016 年 平成 28 年 8 月	改正発達障害者支援法施行（平成 28 年 6 月改正）	・可能な限り発達障害児が発達障害児でない児童と共に教育を受けられるよう配慮しつつ、適切な教育的支援の実施・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成の推進等・
2017 年 平成 29 年 4 月	新特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領公示	

2017年 平成29年4月	通級による指導の教員定数の基礎定数化（平成29年3月 義務標準法改正）	
2018年 平成30年4月	高等学校等における通級による指導の制度化（平成28年12月学教法施行規則等改正）	
2018年 平成30年8月	個別の教育支援計画の作成における関係機関との情報共有の制度化（学教法施行規則改正。公布日施行）	
2018年 平成30年9月	小中学校段階の病気療養児に対する同時双方向型授業配信の制度化（通知）	・当該授業配信により指導要録上出席扱いにすることが可能
2019年 平成31年2月	新特別支援学校高等部学習指導要領公示	
2019年 令和元年9月	「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」を設置	
2019年 令和元年11月	高等学校等におけるメディアを利用して行う授業に係る留意事項について（通知）	・受信側の病院等に当該高等学校等の教員を配置することを必ずしも要さないようにした。
2020年 令和2年4月	学校教育法施行規則改正	・高等学校等における病気療養中等の生徒に対するメディアを利用して行う授業の単位修得数等の上限を緩和
2023年 令和5年3月	高等学校等の病気療養中等の生徒に対するオンデマンド型の授業に関する改正について	・病気療養中等の生徒に対して行う授業については、高等学校等が認めた場合には、オンデマンド型の授業で実施することを可能とした。
2023年 令和5年3月	小中学校段階の病気療養児に対するオンデマンド型授業配信について	

## 2. 現職教員へのインタビュー

### (1) Aさん（インタビュー対象者）のプロフィール

東京都公立中学校教諭。通常学級の教員を経て、2004年度より特別支援学級の教員となり2023年度が20年目で、この間に6校を経験している。

### (2) Aさんから語られたこと

#### ①通級の概要について

特別支援学級はどの学校にも設置されているわけではなく、いくつかの学校から児童生徒が通ってくる、複式学級である。現在勤務している学校はB市に唯一設置された特別支援学級で、生徒は広範囲から通学してくる。

#### ②対応の現状

利用している生徒の背景が多様すぎる。不登校状態になっている生徒も増えていて、支援が十分に行われ



ているとは言い難い現状がある。

③発達障害は増えたのかという問いについて

在籍は増えている。例えば、勤務校のある地区の合同の体育的行事への参加者は2007年度・2008年度は700人前後であったが、2023年度は、1500人であった。参加しない学校もあり数字はおおよそのものであるが、通級利用も含め、倍増したと言える。

④この20年間の変化

以前であれば、通常学級に包摂されて十分にやっていたと思われるような生徒もいる。通常学級を担当する教員が他の教育課題をかかえすぎている中で、多様な生徒を包摂するちからを失っていると考えざるを得ない。

# 新科目『公共』の存在意義とその価値を活かす指導を考える

～改定された学習指導要領の理念を活かした学習指導②～

法政大学小金井キャンパス兼任講師 藤牧 朗

## 要旨

この世の中を生きていくのに、必須な教科の上位3科目を選ぶとすれば、家庭科、保健、公民科であると考えている。今回、その中で、学習指導要領において、新規科目として登場した「公共」を担当することとなった。この科目は、今回の学習指導要領の一つの特徴を示す科目といえよう<sup>1</sup>。従来、公民科にあった「現代社会」の変形したものともみえるが、そこには学ぶ強い理念と「必修」とした意図が感じられる。社会の変化に伴い、必要とされる概念や知識が変化するこの社会において、通念上主要三教科（国語、数学、英語）といわれるものに含まれていないことを学び続けるためには、「学ぶ愉しさ」を感じるとともに自分自身の「学習方略」を身につけることが必要である。

そこで、自分として、この科目の新設の意義を捉えて進めてきた授業及び試験や評価について、生徒の反応を中心にここでまとめて記し、その方向を示そうと試みた。

## Abstract

If I had to choose the top three essential subjects for living in this world, I would choose home economics, health, and civics. Among these subjects, I am now in charge of "Public Affairs," which is a new subject in the Courses of Study. Although this subject can be seen as a variant of "Contemporary Society," which was previously included in Civics, I feel that there is a strong philosophy and intention in making it a "must" subject. In this society, where concepts and knowledge are changing as society changes, it is necessary to feel the "pleasure of learning" and to develop one's own "learning strategy" in order to continue learning things that are not included in the three main subjects.

Therefore, I have attempted to summarize and describe

here the lessons, examinations, and evaluations that I have conducted in light of the significance of the new establishment of this subject, focusing on the students' reactions, in order to show the direction of the subject.

## 0. 初めに

### (1) 「学び」へ向かう前提

“勉強はさせない”、これが学びを継続させるための条件である。「学びはたのしければ続かない」と考えている。日本において、特に高校生は、世界からみると、「できるのに学ぶのを嫌うようになってしまっている」傾向がみられる。これは自己肯定感・自己効力感の低下につながっていると考えられる。さらに社会の変化の速さは大きくなり、同じこと（業務）をずっと続けて生きていくことは難しくなっている。そのため、学び続けること、自分自身を常に向上させていくことが求められている。つまり、一生学び続けることが必要ということである。そして、学び続けるためには、学ぶたのしさと自分自身の学び方（学習方略）が肝要であるが、日本の子どもたちは、義務教育段階において、既に自律学習に対する自信が低いことが国際調査で表れている<sup>2</sup>。

### (2) 継続した学びを実現する方法

学びが継続するためには、「たのしさ」「自己効力（＝自分が役に立っている）感」をもてればよい。さらに、学校において、最も多くの時間を過ごすことになっているのは、もちろん授業時間である。よって、その授業時間の中において、この「たのしさ」を感じ「自己効力感」をもてるように工夫すればよいことになる。多くの児童生徒たちにおいて、その二つを満たす方法の一つとして、獲得型教育<sup>3</sup>における演劇的手法が挙げられる。これをほぼ毎授業の中に入れることによって、生徒が生き生きとし、授業時間が活性化される。この中には、多くの人の前で「他人（他のモノ）になっ

1 この詳細の点に関しては、学習指導要領及びその解説、また学習指導要領作成に至る中央教育審議会の教育課程部会等の議論（議事録等）をご覧いただきたい。

2 こちらについては、文部科学省ホームページより「OECD 生徒の学習到達度調査 2022 年調査（PISA2022）のポイント」を参照されたい。

3 獲得型教育は故渡部淳先生が獲得型教育研究会において、自律的市民を育てるという目的をもった『主体的・対話的で深い学び』を促す学びの方法である。これについての詳細は、参考文献を参考されたい。

で発言など表現する（なりきりプレゼンテーションのかたちとなる）」ことが含まれている。そこで、この方法をもちいることで、進んで一歩前に出られる人、国際的にも活躍できる自己表現できる人物を育てることができると期待される。

## 1. 社会科、地理歴史・公民科担当として

### (1) 新科目「公共」

この科目は、もともと求められていることが広く、ある意味「責任の重い」科目であると感じる。例えば、社会に生きる市民として社会に出るにあたって「社会科」として必要な知識を提供するとともに、これからの社会や国家を考える科目、また、小中学校で学んできた「道徳」の延長線上にある「社会で生きていくための良識を考える科目」でもあると捉えている。

さらに、その「考える」根幹としての「さまざまな考え方」の提示をする「哲学基礎」としての役割も担っている。つまり、考える「たのしさ」をさえ「考える」科目でもあると考えられるのである。

### (2) 生徒たちの「公民」への思い

新科目「公共」は公民科の一つである。しかし、いままでも中学生に公民分野について尋ねてきたところでは、「地理や歴史は好きだけれども公民は…」と言葉を濁されることが多い。「地理や歴史は好きだけれども公民はよくわからない」「地理や歴史はおもしろいけれど公民はつまらない」「地理や歴史は興味があるけれど、公民は眠くなる」…などという声をしばしば聞いてきた。実際、過去の公民の授業においては教室の三分の一程度の生徒が眠っているような授業を観てきた。また、高校生からは、「受験に関係（必要）ない」「受験科目の勉強が忙しくて（学ぶ）時間がない」「そもそもなんでこの科目をやる必要があるのかわからない」という声も聴いてきた。このようなことを言わせて（思わせて）しまうことも、我々教員側の意識や姿勢ひいては授業の設計にも原因があるものと考えられる<sup>4</sup>。

そのため、教員側が特別な意識をしていかないと（＝従来型『受験を目指した知識注入型授業』を行っていくと）生徒たちは主体的な学びが進まないと感じてきた。そこで、特に、中学段階において公民分野を担当するときは、『疑似的な現実社会の場を教室内に形成する』ことにより「学ぶ価値があるもの」という意識をもつことを促す学習活動を行うようにした。そこ

で用いたのが「獲得型教育」でいうところの演劇的手法である。まずは、そこに至るまでの経緯を述べたい。

## 2. 以前の勤務校における社会科、公民科

### (1) 以前の勤務校における実践①

以前勤務していた中高一貫校の私立校において、中学生の社会科や高等学校の地理・歴史科および公民科を担当していた。特に、自分には、もともと専門と考えていない（また、大学受験科目として利用していなかった）公民系分野及び公民系科目の担当となることが多かった。

専任教諭として、初めてこの学校で中学3年生社会科を担当させていただいたときの担当（中学3年生の学級担任を兼ねる）学年は、問題を抱えた学年であった。そこで、担任として他の学校（公立中学校）での経験を活かし、落ち着いた学級（及び学年）づくりを行うとともに、教科学習に向かう姿勢を形成しようと試みた（ここにおいて、『教科学習に向かう姿勢を整えることにより落ち着いた学級づくりを目指す』という方法もあるが、現場の状況を鑑みて、ここにおいては上記のような二つのことを並行して進めていく方法が適切であると判断した）。学級の安定化に目標とする期限をもって進めたところ、ほぼ達成することができた。教科指導の方は、「公民」に対する固定的な考えと別のクラス（教科主任担当）と合わせて進めるということから毎授業の「一問一答型小テスト」（ここから定期考査の問題としてもでる）を行うことが求められていたので、知識注入型授業を行っていたが、授業の様子をみていて、どう観ても生徒がのってきいていないことが分かった（寝ている、他のことをやっている）。

そこで、「裁判所」を学ぶ項目のところで、模擬裁判を行う演劇的手法を用いた（ロールプレイ）授業を実施した。そうするとどうだろうか、今まで、全く授業に参加していなかった生徒も含めて全員が与えられた役を演じ、しかも各人それぞれが自分なりに工夫を凝らして入っていた。つまり、授業の場にいた全員が、「自分で考える」学びを行ったと考えられる。このときは、生徒たちは、「またやりたい」ということを言ってくれたが、この年度中は別の教員との調整がつけられなかったため、次年度以降実施することとした。ここから、どのような教科科目を担当するときも、どの学年を担当するときも、「獲得型教育」における演劇的手法にあるさまざまな手法を、その学齢や教科（及

4 東京大学文科類を受験するときに実質上公民科目が利用できないということも少なからず影響があることがうかがえる。

び科目)に応じて、授業の中に取り入れていくこととした。

また、別の学年で、教科担当として持ち上がって高校3年生「政治・経済」を担当したときには、生徒から「自分たちに授業をやらせてほしい」という意見が多数あり、条件付き毎授業交替で授業を進めてもらった。それまでに、さまざまな授業方法を展開してきたので、生徒各々がやりやすいように学びやすいように授業を展開してくれた。その中には、従来型の板書中心の授業を行うこともあれば、ディベート型の授業を行う生徒、ジグソー法を用いる生徒もいて、生徒それ

ぞれが飽きることなく学ぶことができたようであった。そして、定期テストは、アクティブラーニング型授業に適応した試験問題として、原則的に、全問文章で回答する形式とした。

このような学びを続けた結果として、担当した卒業生平均において、センターテストにおいても、自分が担当してきた科目の全てにおいて、校内の他の科目の平均点上位を占めるとともに全国平均を上回ることができた。このことは、アクティブラーニング型授業が、「教え込み型授業」を上回る学力向上を促す可能性を示唆しているといえよう。

教科	国語	数学 I・A	数学 II・B	英語	リスニング	世界史 B	日本史 B	地理 B	倫理
校内平均	108	48.56	36.19	103.25	29.64	65.44	59	61	62
全国平均	129.39	55.27	47.92	112.43	30.81	67.25	65.55	60.1	51.84
差	-21.39	-6.71	-11.73	-9.18	-1.17	-1.81	-6.55	0.9	10.16
教科	現代社会	倫理・政経	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物
校内平均	57.25	65	36	14	22.5	21.5	46	45.29	59.5
全国平均	54.53	60.5	34.37	26.77	27.58	33.9	61.7	54.48	63.62
差	2.72	4.5	1.63	-12.77	-5.08	-12.4	-15.7	-9.19	-4.12

(2016年センターテスト結果)

【表1】 センターテスト (当時) 結果 (当時の勤務校)

## (2) 以前の勤務校における実践② (中学3年生)

中高一貫校であったため、中学3年生公民から高校3年生の公民科各科目を担当する機会が多くなった。前年度、高校3年生まで担当した学年の後、さらに、中学3年生の社会科(歴史分野+公民分野)を担当することとなったときに、「この学年は従来よりも学習に向かう姿勢ができていない」という内容のことを聞いていたため、担当当初の授業において生徒にアンケートをとってみた。その内容は、「どのような授業をして欲しいか」というとても漠然としたものであった。なぜこのような漠然とした記述形式の問いにしたかということ、この方が自由に書けると同時に、生徒の表現力その他の学習に関するさまざまな意識や力が観られるのではないかと考えたからであった。

このアンケートの結果として、出席者のうち一人を除いてすべての生徒から「自分が話せる授業がよい」という内容の回答が出てきた。男子が多く、外から聞いているとどちらかというと授業内容に対しては消極的な生徒が極めて多い様子だったため、このアンケート結果には驚きを感じるとともに、この結果を重要項目の一つであると考えた。そこで、アクティブ・ラーニング(後の「主体的・対話的で深い学び」)のさまざまな方法を用いた授業を展開することになった。原則として「教えて考えさせる授業」(市川伸一氏)の型を利用し、そこにKP法(紙芝居プレゼンテーショ

ン法)や演劇的手法を入れていく方式を使って、時間的余裕をつくり、授業時間を活き活きと活発なものにする。それとともに、グループワークで「問いをつくり」「考え合い」「教え合う」雰囲気を整え、生徒自身が「いっしょに学ぶことの価値」や「協働することの大切さ」を感じ取れるようにすることに重点を置いて、授業時間を生徒同士が自ら積極的に学び合う場となるように意識してきた。

その結果、この学年(中学3年)で進めている途中で、授業に関する感想を聞いたところ以下のような回答が得られた。

生徒の「感想」(一部掲載)

・Aさん(女子)

…たくさん発言することができました。(中略)実際にテスト前とかに暗記したりすることもなかったのに、時間が経っても歴史などの知っていることが増えていて、家族に説明することまでできて驚きました。

・Bさん(男子)

…自分の考えなどを述べる授業を続けて欲しいと思います。今後も自分の考えを述べる試験を創って欲しいと思いました。理由は、自分の考えを述べることは、将来社会に役に立つと思うからです。

### 3. 現勤務校（公立中等教育学校）における 中学社会科

#### (1) 2年次（中学2年生）社会科実践

昨年度、周囲の都合により、年度途中で（後期から）中学2年生の社会科（地理分野と歴史分野を交互に学習するスタイル）の担当<sup>5</sup>となった。今回は、他の先生と二クラスずつ授業担当することとなり、定期試験問題は問題形式ごとに分けて一部の問題を作成（及び採点）することとなった。そこで、文で回答する問題とその考え方を生徒に提示した（採点基準ともなる）ルーブリックを示した。これは、生徒からみると、解答の仕方と同時に、考え方や学び方を示す重要な役割をもつものであるといえる。その目的を達成するため、生徒にはできるだけ試験前に早い時期にルーブリックを示すよう努めた。

現勤務校の当該学年においては、学びに対する意欲が高い生徒がほとんどで、教員である自分としては、その意欲にどのように応えていくか、また、その意欲を活かしてどのような学びの場を創っていくのが課題となると考えられた。担当となるとわかったときから、前任者の授業を参観させていただき、生徒の様子を掴んで授業の進め方を考え、授業担当として臨むことができたことは、自分自身と生徒にとって幸運なことであった。

はじめの授業のときに、授業の展開の仕方が大きく変わることについて時間をかけて説明した。前に担当していた教員が、大きな画面に画像資料を示しながらとても詳しく説明する授業を行っていた。そこで、形態が大きく変化し、「生徒中心の生徒による生徒の学び」となることを説明した。具体的に言うと、教科書内容に関しては、こちらから説明するのではなく、自分で読んで学ぶものであると伝えた。そして、グループワークを用いて生徒からの「問い」を求める形とした。

生徒には、まず授業の進め方についての意見を聞こうと思っていたが、すでに「対話的協働型授業」となることは知っていた（覚悟していた＝期待していた）ということなので、そのまま授業に入ることができた。そして、生徒とのやり取り（連絡や提出物）はロイロ・ノートを用いた。授業中での「問い」や疑問・質問、ノートまとめに関してもロイロ・ノートでの提出とした。

#### 【授業1コマ（55分）の基本的な進め方】

①ホット・シーティング（主に前回の授業内容の発展的復習、理解深化）

↓

②きょう学ぶ項目（毎時原則教科書で2ページ）を読む  
む→個人で「問い」を考える

↓

③グループ内で「問い」の出し合い→解答し合う（教え合う）→「問い」の精選

↓

④出た「問い」を教師がいっしょに考え回答しながら本日の授業内容を説明する

↓

⑤生徒各人が小項目ごとにまとめる（＝パソコン上でまとめロイロ・ノートに提出）

↓

⑥リフレクション（自己評価及び本日の感想）…フォーマットに記入提出

#### (2) 2年次の授業に対する感想、意見

年度終了後に受け取った生徒からの感想、意見の一部を以下に掲載する。（なお、一部文字修正及び省略がある。）

- 
- ・ものごとの本質にせまる授業で社会を暗記する教科書から変えてくださいました。かっぱかわいいです。ホットシーティング<sup>6</sup>は楽しかったし、演劇的指導で楽しく学び、深めることができました。
  - ・最初はホットシーティングに戸惑いましたが、会話が面白くて新鮮でした。
  - ・ホットシーティングでいろいろ考えること、おもしろかったです。パソコンでまとめることでしっかり覚えられました。
  - ・たくさん話し合う時間があって、内容を深められたり、先生の話の聞いたりするのがおもしろかったです。また、いろいろな話聞かせてください。
  - ・半年間ありがとうございました。教科書をじっくり読んで、自分なりにまとめるのはすごくたのしく、とてもためになったと思いました。また、先生は色々な経験を持っていてエピソードを聞くのがとてもおもしろかったです。
  - ・授業がとても楽しかったです。特に、自分の意見を考えるところが良かったです。
  - ・半年間社会を教えて下さりありがとうございました。

5 この年度当初は、4年次（高校1年相当）物理基礎を中心とした理科担当であった。

6 ホット・シーティングとは演劇的手法の一つで、基本的には一人の人が前に出て、他の人の質問を受ける形をとる。藤牧は、理解深化（発展的復習）として利用しているが、授業へ向けてのアイスブレイクとしてのほたらきも担っていると捉えられる。

- た。私は今まで、無理やり暗記だけさせられた経験などから、「社会は暗記するだけでつまらない」と思い嫌いでした。でも先生の指導を聞いていたら社会を面白いと思えるようになり、苦手意識がなくなりました。
- ・ クロムを使って生徒主体で取り組む授業はとても分かりやすく、班で話し合うのはとても楽しかったです。またご指導いただける機会があったらよろしく願います。
  - ・ 先生のグループワークやホットシーティングは楽しく、考えが深められてとても勉強になりました。特に、グループで劇を創るという授業ではより考えが深まり、普段できないようなことができてとてもおもしろかったです。
  - ・ これまでの社会の授業でやったことのない方法を使っていて、毎回驚いていました。これからもよろしく願います。
  - ・ 今までの社会科の授業は書いたり覚えたりすることが中心でしたが、先生の授業は友達と話し合っただけで深め合うことが中心で、とても新鮮でした。また、ホットシーティングや演劇で楽しく学ぶことができました。
  - ・ 先生はALのプロなんだと本当に実感しました。社会は自分の中の「理解」になりにくいけれど、このやり方だと少し近づく感じがしました。たまに人間的な話もあってためになります。今後とも人の話を聞くことに気をつけたいです。
  - ・ いつもとてもおもしろい授業をして頂きありがとうございました。先生のおかげで社会がもっと好きになりました。
  - ・ Kappa と Raion が可愛かったです。最推しはタラピヨです！ホットシーティングは学習の刺激になって楽しかったです。
  - ・ 先生は、「本当の歴史や地理」を深く分かりやすく教えてください。先生のおかげで、とても面白かったです！特に私は歴史が好きでした。来年も何かの教科で教えてください。
  - ・ ルーブリックの形式でのテストは、自分の得意な分野をさらに得意にしようという意欲を大きくしてくれました。
  - ・ 「教科書を完全に信じてはならない」という藤牧先生の言葉は深く考えさせるもので、いろいろ調べてしまったという思い出があります。先生の授業はとてもユニークで楽しかったです。
  - ・ 藤牧先生は一番癖が強い先生で、かつとてもためになる授業でとてもおもしろかったです！歴史人物やものになりきるのも楽しくて、とても良い経験が得られました！
  - ・ 自分でまとめる授業はとても身になりました。これからも続けていこうと思います。
  - ・ 演劇的手法が楽しかったです。またテストの文章回答が面白かったです。
  - ・ アクティブラーニングを取り入れた授業が新鮮で、教え合うことが学びにつながりました。
  - ・ 先生の授業の仕方は効率的で、覚えやすかったです。また、社会のことを考えるきっかけになりました。
  - ・ 他の人と意見を言い合うといった活動によって、自分の理解が深まりました。また、ちょっとした劇をやったのもとても楽しかったです。
  - ・ 今までの社会の授業では言われたことを覚えるだけででしたが、藤牧先生の授業は一つ一つのことについて「なぜなんだろう」と考えながら授業を受けることができました。また、社会を教えていただく機会があったらよろしく願います。
  - ・ まとめることと発表が中心の授業で内容がとても頭に入ってきました。劇が特に楽しかったです。苦手な社会も好きになりました。
  - ・ いつも違うスカーフとぬいぐるみを見るのが楽しかったです！例のかっぱはかっぱえびせんのですか？
  - ・ 社会は暗記ものばかり思っていたけれど、先生の授業のおかげでそうでないと気付きました。ホットシーティング楽しかったです。これからもたのしい授業をしていてください。
  - ・ ホットシーティングをしたり、劇をしたりする授業は新鮮でとても楽しかったです。教えていただけて本当に良かったです。
  - ・ 授業時間はそこそこ多いはずなのに、なぜか短く感じるほど授業がたのしく感じた。これまでの授業スタイルとは大きく異なっていて新鮮でした。このまま世界地理とかの方もあったら良かったと思っています。
  - ・ 学校の先生という概念をぶちこわしているあなたはとてもかっこよかったです。おもしろく独創的な授業をありがとう。
  - ・ 先生の授業はホットシーティングなど多くの工夫があり、楽しく深く学ぶことができました。

#### 4. 今年度の4年次(高等学校1年生相当)「公共」の授業展開

##### (1) 「公共」のこれまでの学びを概観する

教科書及び学習指導要領から、以下のようなことを中心に進めていくこととした。

- ①「社会における人としての在り方生き方を考える方法」を考える。
- ②代表的な「哲人」の「考え方」を知り参考にして自分の「考え方」を考える。
- ③身につけた「考え方」を適用して、以下の内容に関して「民主主義社会」を考える。
  - a. 政治      b. 司法      c. 経済
  - d. 職業と労働      e. 国際社会

特に、中学段階では詳細に学ぶ内容が少ないため生徒にとって捉えがたく、かつ私たちの生活に深く関わっていく「経済」「職業と労働」、さらに私たちの生活と切っても切り離すことのできなくなった「国際社会」の項目については、対話的にいっしょに考えていくことが肝要であると考えられる。従来の方法では解決できない課題、すなわち関係当事者同士の利害が対立している問題や地球規模の大きな問題などが山積みとなっている現代社会において、いかに解決していくのか、解決に至らないまでも乗り越えていくのか、生き残っていくのか、今まで知られているやり方で、自分一人では解決できない課題について、周りの人、特に多様性をもった人たちとさまざまな考え方を出し合って、それぞれの課題や問題に挑戦していくことが求められている。そこで、それに応えられる姿勢を養うこともこの中等教育（中学生及び高校生）段階で最も大切なことの一つであると考えられる。

そこで、特に、この変化の激しい現代社会において、一人の独立した自律した市民として生きていくために重要な科目と捉え、生徒ひとり一人が大学受験主要科目とは異なる意味でも学ぶ価値身につける価値を

感じられるような授業を創っていくことが求められている。そこを強く意識して、授業を「学ぶ場」の中心として、グループワークを中心に、生徒が主体的に進めることのできる対話的で協働的な学びの場を創るよう努めた。

## (2) 通常の授業実践 (初期)

進度としては、通常予定されているものと同様、一コマの授業（原則 55 分）の中で、教科書でいうところの 1 項目（または 2 項目）を進めた。その進め方は以下の通りである。

### 【授業の基本的な進め方】(画像 2)

- ①ホット・シーティング（先哲の一人になりきってやり取りをする）
 

↓
- ②きょう学ぶ「項目」について議論（原則的に 4 人グループで）
 

↓
- ③教科書の各小項目（3 項目程度）をロイロ・ノートにまとめる→提出
 

↓
- ④小項目毎にグループで説明し合う。このとき、左右の欄外の記述内容も注意する。
 

↓
- ⑤リフレクション＝自己評価及び本日の感想など（ロイロ・ノートに表現→提出）

<p><b>1 人権宣言</b> 基本的人権に関する差別の禁止 これを基礎に条約化された<b>国際人権規約</b> <b>差別撤廃条約</b> <b>子どもの権利条約</b>なども採択</p> <p>性の権利保障 世界的に大きな課題 <b>差別撤廃条約</b>の採択 <b>男女雇用機会均等法</b>、<b>男女共同参画社会基本法</b>採択 ポジティブ・アクション推進など</p> <p>障害者の権利保障 障害者差別解消法 LGBTなども問題視 日本と外国人の人権保障やヘイトスピーチも</p> <p>3年6月13日 14:17</p>	<p>人権保障の広がり</p> <p>人権保障は、国内の問題としてはじまったが、今日では、国境をこえて守られるべきものとなっている。世界人権宣言は、基本的人権にかかわる差別の禁止を定めた。また、この内容を基礎にして条約化された<b>国際人権規約</b>も様々な権利を定めている。人権差別撤廃条約・子どもの権利条約などの人権条約も採択されてきた。少数派の人々の人権が保障されず、不当な取り扱い・差別を受けるようでは、人間の尊厳が脅かされ、私たちが協働して社会を作っていくことは困難</p> <p>2023年6月13日 14:17</p>	<p>国際人権規約はさまざまな権利を定めている。 人権差別撤廃条約や子どもの権利条約などの人権条約も採択されてきた。女性の権利保障は20世紀後半以降、世界的に大きな問題となり、女子差別撤廃条約の採択をきっかけに日本でも<b>男女雇用機会均等法</b>や<b>男女共同参画社会基本法</b>が採択された。女性の社会参画の機会を積極的に提供する<b>ポジティブ・アクション</b>を推進する動きも障害者の権利も、障害者の権利条約を機に日本ではLGBTなどの権利保障も課題に。近年では、ヘイトスピーチや在留外国人の地方参政権などの</p> <p>2023年6月13日 14:18</p>	<p>基本的人権に関する差別の禁止 これを基礎に条約化された<b>国際人権規約</b> <b>差別撤廃条約</b> <b>子どもの権利条約</b>なども採択</p> <p>女子差別撤廃条約をきっかけに日本でも<b>男女雇用機会均等法</b>、<b>参画社会基本法</b>が制定された。</p> <p>ポジティブ・アクション…女性の社会参画の機会を積極的に推進すること。</p> <p>障がい者の権利条約…日本の障がい者差別解消法が制定されて近年では、LGBTなどの性的少数者の権利保障が話題となっ</p> <p>2023年6月13日 14:19</p>
<p>国境をこえて守られるべきものとなっている 規定：国籍、人種、民族、言語、性別、思想、心身、宗教などによる差別を禁止 趣旨：世界人権宣言を基礎とし、多くの権利を定めている</p> <p>国際人権規約、子どもの権利条約などの条約も 権利保障は20世紀後半以降世界的に注目される</p> <p>国際人権規約の採択 男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法 ポジティブ・アクションを推進する動き</p> <p>差別撤廃条約 差別解消法</p> <p>性的権利保障 性的権利保障の国際的動向 差別撤廃条約</p> <p>3年6月13日 14:19</p>	<p>国際人権宣言、人権差別撤廃条約、子どもの権利条約 世界人権宣言で定められたことをもとにして条約化された</p> <p>20世紀後半以降女性差別が問題に ・女子差別撤廃条約 ・男女共同参画社会基本法 ・ポジティブ・アクション</p> <p>障害者の権利 ・障害者の権利条約 ・障害者差別解消法</p> <p>2023年6月13日 14:19</p>	<p>【人権保障の広がり】 人権保障は国境をこえて守られるべき ⇒国際人権規約、人権差別撤廃条約、子どもの権利条約</p> <p>女性の権利保障の課題 ⇒女子差別撤廃条約、男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法 ポジティブ・アクション …人種、ジェンダーの差別解消に向けた是正措置</p> <p>障害者の権利保障 ⇒障害者の権利条約、障害者差別解消法</p> <p>LGBTなどの性的少数者の権利保障、外国人の権利保障etc...</p> <p>2023年6月13日 14:19</p>	<p><b>人権保障の広がり</b> <b>世界人権宣言</b> 「国籍、人種、民族、言語、性別、思想、新正、宗教など人権に関する差別の禁止」 →<b>国際人権規約</b></p> <p>・人権差別撤廃条約、子どもの権利条約の採択 ・女子差別撤廃条約 →<b>男女雇用機会均等法</b>、<b>男女共同参画社会基本法</b>、<b>ポジティブ・アクション</b>など ※<b>ポジティブ・アクション</b>…人種、性別差別の是正</p> <p>・障害者の権利条約→<b>障害者差別解消法</b>（合理的配慮を！）</p> <p>2023年6月13日 14:20</p>
	<p>世界人権宣言：基本的人権にかかわる差別の禁止 →<b>国際人権規約</b>(1966)・<b>人権差別撤廃条約</b>(1965)・子どもの権利条約(1989)など</p> <p>女性の権利保障 1979 女子差別撤廃条約 1995 男女雇用機会均等法（日本） 1999 男女共同参画社会基本法（日本） ポジティブ・アクション（積極的是正措置）を求める</p> <p>障害者 2006 障害者の権利条約 2013 障害者差別解消法</p>	<p>国籍、人種、言語、性別などに対する差別を禁止し<b>国際人権規約</b>も様々な権利を定めている。 子どもの権利条約や、<b>人権差別撤廃条約</b>などの人権条約も採択されてきた。 <b>女子差別撤廃条約</b>や<b>障害者権利条約</b>の採択をきっかけに日本でも</p>	<p>人権保障の広がり</p> <p>・国際人権規約 ・人権差別撤廃条約 ・子どもの権利条約</p> <p>20年代以降…女子差別撤廃条約男子用機械検討法・男女雇用参画社会基本法、男女共同参画社会基本法→<b>男女差別</b> ポジティブ…アクション</p>

【画像 1】まとめ

夏休み明けて大きく変更したところがある。それは、授業前半のホット・シーティングのところである。7月までは、哲人（4月から5月初頭にかけて先哲について「先哲選抜総選挙」実践<sup>7</sup>を通して学んでいる）の一人になりきって、質問を受ける形をとった。しか

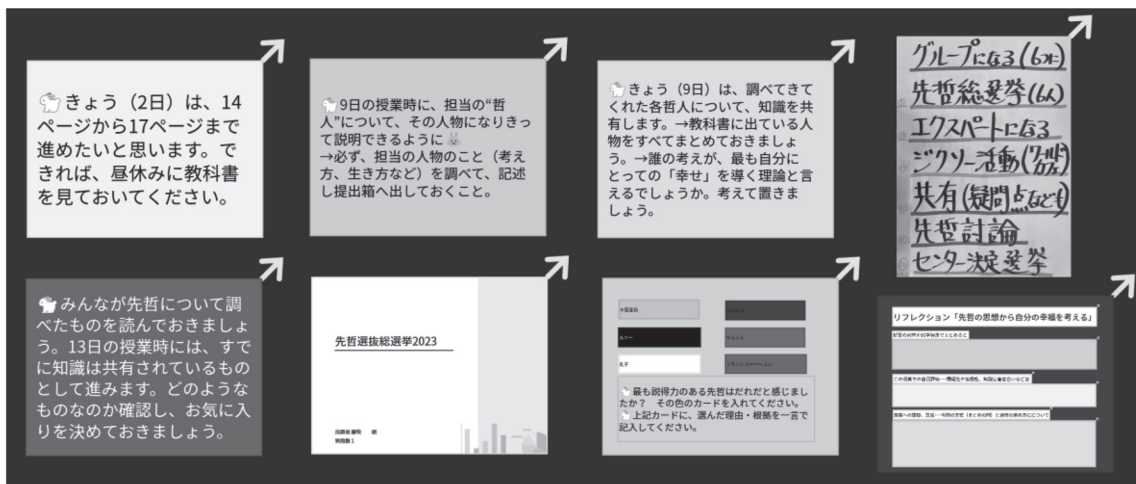
し、学習項目が政治から経済と進んでくると、今現在に社会で起こっていることに関して具体的にみんなで考えていく方法が生徒の関心を引くことができるものと感じられた。



【画像2】ホット・シーティング



【画像3】KP法とグループ学習



【画像4】「先哲選抜総選挙」

### (3) 通常の授業実践（中期以降）

上記にあるような状況の中で、授業の前半時間の変更を行った（下記【授業の進め方】参照）。授業時間が、生徒の関心とリアルタイムな時事問題に関する議論ができる「生き活きとした時間」に変化した。しかし、生徒がのめり込む魅力ある時間となったために、授業時間の半分（20～25分程度）近くを占めることとなった。ここにおいて、教科書学習項目内容に関する学びについての生徒同士での学び合いは続ける必要がある。そこで、グループでの「問い出し」の時間は確保した上で、教員からの教科書内容の解説時間の効率を上げ、授業時間における教科書内容をまとめる時間は省くようにした。しかし、他のクラスと比較した試験結果（平均得点の差異）は授業形式の変化によって特に変化する

ことはなかった。

#### 【授業の進め方】（画像9）

- ①「本日テーマ」の提案…提案者がきょう議論する一つの社会問題を提案する。
  - ・提案者が提案理由の説明と議論の時間設定を行う。
- ↓
- ②上のテーマについて議論（原則的に4人程度のグループで）→発表
  - ・ここも提案者がMCとなって進める。
- ↓
- ③きょう学ぶ項目について、教科書を読んでグループで「問い」をつくる。

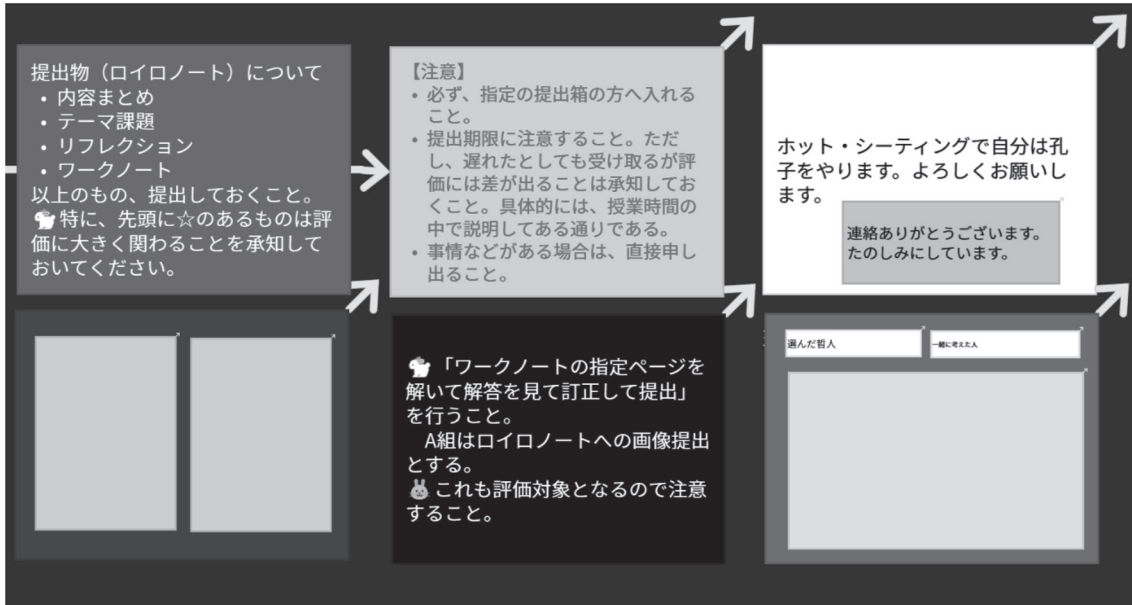


→ロイロ・ノートに記述、提出



⑤リフレクション＝本日の感想や意見など（ロイロ・ノートに表現→提出）

④生徒から出た「問い」に対する回答を中心に、きょうの内容の簡単な解説を実施。



【画像5】進め方指示

<p>自分が「こうであってほしい」と思う出来事(特に自分好きな芸能人に結婚してほしいとか)について、ネットニュース等でその記事が出てもやっぱりどうだ！と観音みせずに、本当に事実なのかをじっくり吟味したい。</p> <p>123年10月4日 09:37</p>	<p>普段から色々な記事を見るが、その情報の信憑性などはいつも考えるようにしているからそれなりにあると思っている</p> <p>2023年10月4日 14:13</p>	<p>Twitterなどでの一個人の意見は信じないようにしています。昨日もTwitterを見ていて、あるYouTuberとある人が同一人物だと騒いでる人がいましたが、一個人の意見だと割り切って信じないようにしました。その点で、メディアリテラシーは身についている方かなと思います。ただ、影響力のある人の意見を鵜呑みにしてしまうことも多々あるので、それに関しては気をつけようと思います。</p> <p>2023年10月4日 14:15</p>	<p>う。インターネットで何か調べものをするときも、一つのサイトの情報だけを鵜呑みにするのではなく、複数のサイトを見て真偽を確かめるようにしている。また、ニュースを見るときも、自分の意見もふまえて理解を深めるようにしている。</p> <p>2023年10月4日 14:42</p>
<p>情報リテラシーは情報の信憑性をよく吟味することが重要だが、それ以上に自分の考え方を持っていることも大切だと思う。</p> <p>123年10月4日 16:46</p>	<p>ネットの情報は疑ってかかることが多い。特にTwitterは怪しい情報がよく流れてくるため、疑いの目を持って見るのが自然とできています。しかし、テレビや新聞の情報はそのまま受け取ってしまう。テレビの内容に対して疑いを投げかけたり、善言を呈していたりするのを見て、そういう受け取り方もあるのだなと感じることが多い。</p> <p>2023年10月4日 17:29</p>	<p>情報を受けるときにはすべてを真に受けるのではなく、聞き流すくらいの気持ちで受け取るというつもりでいる。ただ、真に受けた方がいい場合もあるのかもしれないというところが懸念点だと感じている。</p> <p>2023年10月4日 21:33</p>	<p>ジャーナリズムの性加害が30年にもわたって隠ぺいされてきたように、マスメディアは時に偏った内容の情報を発信し、拡散されたくない事実を報道しないことがある。表向きに報道されていることばかりに流されるのではなく(今までの自分)、これからは少し捉え方を変えて読む意識を常に持ちたい。</p> <p>2023年10月4日 21:40</p>
<p>私自身、そんなに情報リテラシーがある人間ではありません。結構言じやすいし、知らない間にフェイクニュースの拡散に協力してしまっているかもしれません。しかし、自覚があるだけまだマシだと思っています。もっと情報は疑ってかかろうと思っています。</p> <p>123年10月4日 16:46</p>	<p>私は、インターネット等を利用するときに自分の情報を最小限しか出さないように気をつけています。情報を発信するときは、写真を出さないのはもちろん、年齢や性別、生活圏などが分からないように、何度も確認するようにしています。また、セキュリティソフトをいれたりパスワードをかけた状態で、急なサイトにアクセスしないようにしています。自分でも、怪しいサイトに飛ぶことがないように注意しています。</p> <p>2023年10月4日 17:29</p>	<p>【私のメディアリテラシー】      ・ 質による判断が求められるので、悪質なサイトにはアクセス出来なくなっている      ・ そこからでも情報などはそもそも触れる機会がない      ・ 気になった記事に関しては、たくさん記事を読んでいる      ・ 一つの記事だけでなく多様な見方を見つけれようという心にかけている      ・ コメント欄を見ることも多いので、その分誰の中の人のいろいろな考え方に触れていると思う      ・ 情報発信は基本行っていないので発生源になることは今のところないが、流れてくる出どころ不明の情報に関しては興味がない限り見逃している      【評価】      ・ 一つの情報だけでその情報を利用するのではなく、公式サイトなどで個人で確かめるようにしているので偽情報に関してはあまり問題がないかなと思う</p> <p>2023年10月4日 21:33</p>	<p>私にとってのメディアリテラシー(情報リテラシー)は、情報を自らの知識を元に取捨選択して、必要な情報を手に入れることであって、それと同時に、ネット上に載っている情報をすべて疑いながら見て、その中で、複数個似たような情報があれば、信じる価値アリと判断し、自分の知識として蓄積したり、調査結果として利用したりする。</p> <p>2023年10月4日 21:40</p>

【画像6】意見・感想①「メディア・リテラシー」

#### (4) 哲人が「恋愛を考える」

この授業は、生徒ひとり一人が、今年度初期(4月～5月前半)「公共のとびら」で学んだ先哲のうちから一人を選びその先哲になり、恋愛をする、恋愛論を語るという形の授業である。

このテーマは、15歳16歳という年齢の生徒たちには関心が高く、またこれからの人生を考えると時間をとる価値のあるものである。そこで、ただ、自分の感

覚で意見を出し合っても自分自身の思考が深まることも拡がることもないので、思考の先輩である過去の哲学者(先哲)の考えをもって考えを交換及び共有するという形をとった。このことがこれからの人生にどれだけ影響を与えるかは明確ではないが、生徒たちの言葉(画像7)から、生徒の感じ方・考え方は広がったものと捉えられる。

<p>ヤスバース</p> <p>振られても自己の有限性を自覚し、超越者の存在を感じ、前向きに生き方を成立させるため、合理的解決をする。</p>	<p>選んだ哲人 キルケゴール</p> <p>美的実存（享楽を求める） ↓ 倫理実存（倫理的義務に生きる） ↓ 宗教実存（信仰による主体性回復）</p> <p>このように、挫折や絶望から回復して主体性を回復するためには、このような道をたどるため、真の自分を愛してくれる人などいるはずもない</p>	<p>選んだ哲人 フーコー</p> <p>人間は自らを理性的だと思わせる ⇒自分が相手の上に立っていると思い込む ⇒フーコーは相手の下手に出て機嫌を取りに行く</p>
<p>選んだ哲人 アーレント</p> <p>労働、仕事、活動の3個の中で人と人との間で言葉を通して行われる、言論や共同の行為である活動が一番大事と考えたため恋愛も人と人との間で言葉を通して行われる、言論や共同の行為である活動であるから大事だと考える。</p>	<p>選んだ哲人 サルトル</p> <p>人間が自由に(恋愛する対象を)選択することは、その選んだ人に価値づけをすることであり、全人類にひとつの人物像を創り上げることであり、相手も同じくそうである。また、自分が選択した全責任を受けなければならない。だから、恋愛をする際は自分がその人物像を本当に目指しているのか、選択の全責任を受けられるのか、などといったことを良く考え、慎重にしておく必要があると私は考える。</p>	<p>選んだ哲人 マザーテレサ</p> <p>マザーテレサは「愛されていないと感じることは、とても恐ろしい病気です。」と人で彼氏に愛してもらえないと激怒してしまいたい人だと考えられる。マリア型の恋愛をしている人である。この気持ちは私も共感できる！！ 彼女にとっての最も大きな苦しみは「孤独、愛されていないと感じること」であるから、いつも彼氏と一緒にいると考えられる。デートをしたら、お化け屋敷だと思う。その理由は、お化け屋敷では2人の距離が結構近づく場所だと思うので、遊びそうである。</p>

【画像7】意見・感想②「恋愛について考える」

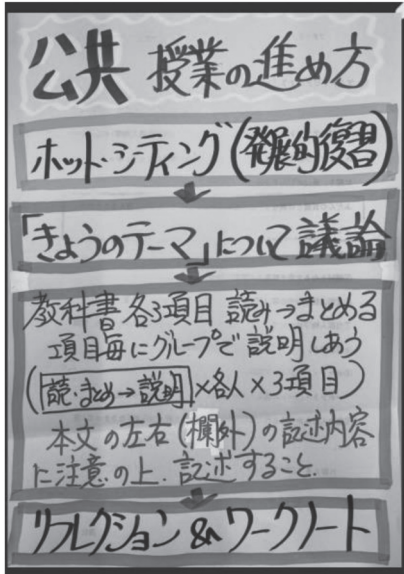
(5) 5人の経済思想から考える現在の『経済政策』

教科書にゼミナール「資本主義の歴史と経済思想」という項目があり、そこに、18世紀「資本主義の発展」アダム・スミス、19世紀「社会主義」マルクス、20世紀「修正資本主義」ケインズ、「新自由主義」フリードマンがまとめられている。ここで終わりとする

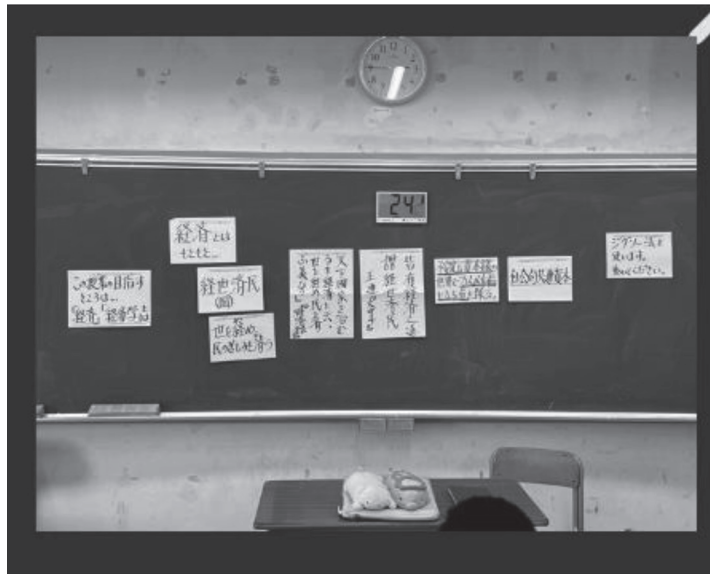
と、自由競争による優勝劣敗が正義であるかのような印象を強くもたれる傾向がある。そこにその直前の項目「市場経済のしくみ」の欄外で言及されている「社会的共通資本」を提唱された宇沢弘文氏の考え方を加えて「公共的な」考えにも思いが向かうように努めた。その結果を示すこの授業後の感想を以下に示す。

<p>た。宇沢弘文の本の内容は親しみのない経済の話であることもあるが、かなり難しい内容であったが納得もできる内容であり興味深かった。だからたとえ難しい内容でも中身はおもしろいかもしいかなのでこれから色々な本に挑戦してみたい。</p> <p>023年12月4日 19:11</p>	<p>った。 ②宇沢さんの経済理論はけっこう面白かった</p> <p>2023年12月4日 19:15</p>	<p>量取引など行われているのか、そしてなぜ排出量を削減しようとしている国が、していない国に対して、排出量の取り決めに積極的に行えなかったばかりに損をしてしまうのか不思議に思いました。</p> <p>2023年12月4日 20:10</p>
<p>①経済学は経済の仕組みを学ぶものだが必ずしもそれが人々の生活を良くするとは限らない ②小泉純一郎内閣は支持率が高いことで有名だと思ってたから批判的な意見を聞いて少し意外だと思った。</p> <p>023年12月4日 21:06</p>	<p>宇沢弘文の考え方に触れて、世を治めるやり方として、人間に焦点を当てるのが重要なのだと考えた。授業後半のジグソー法では、排出量取引の非倫理性を担当して、各国の排出量をはじめに決める際に、排出量の対策をしている国が得をするようになっていくと気付かされた。これは、現在の環境問題の先進国と発展途上国の主張の食い違いにも言えることなのではないかと思った。</p> <p>2023年12月4日 21:10</p>	<p>経済は語源として社会に生きる人々を救うものであるはずなのに、今回、宇澤先生の文を読み、アメリカが中心として波及させているフリードマンの市場原理主義による格差拡大や、お金を中心として、弱者側を切り捨てるような社会経済の矛盾がわかりました。</p> <p>2023年12月5日 07:26</p>
<p>今回の授業のように生徒同士で（市場原理主義）のような難しい内容について話し合うのは久しぶりだったため、とても新鮮味があった。ただ、資料に知らない単語が多く載っていたため、少</p>	<p>①経済も歴史にともなって考え方が変わってきているのだとわかった。また、経済はただ数字を見るものというわけではなく、考え方も発展において大切な要素だと気づいた。 ②久しぶりに藤牧先生の授業を受けて嬉しかった。書物を読んで要約するだけでなく、自分の意見</p>	<p>日本に宇沢弘文さんのような、優れた経済学者がいたことが誇らしいと思いました。社会的共通資本についてや、宇沢さんが親近感を抱いており、「日本のケインズ」と言われる石橋湛山の考えなどがわかりました。私も、</p>

【画像8】意見・感想③「経済思想と経済政策について考える」



【画像9】授業の進め方



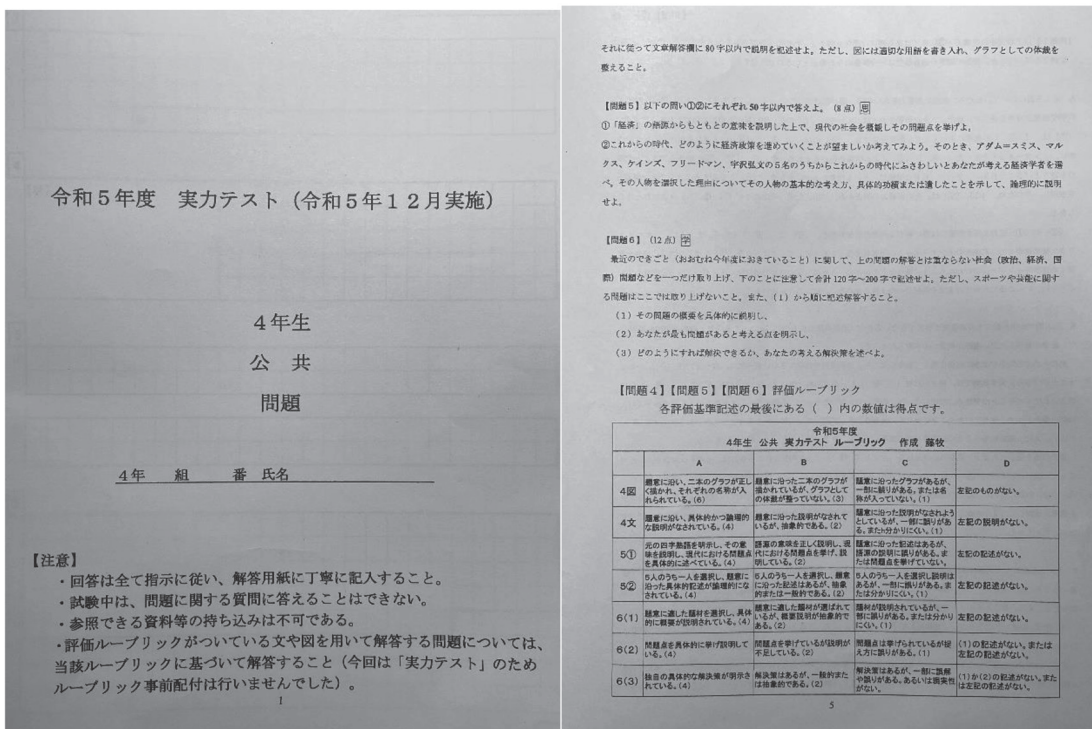
【画像10】「経済とは」 K P

(6) 定期考査と評価 (画像資料 11 参照)

定期試験等の問題は、全問を文で答える形式 (50 字、100 字、150 字、200 字など) とすることが通常であり、それにループリックをつけることを原則としてきた。しかし、今年度の「公共」は、各学年4クラスある内の1クラスのみを担当 (3名で担当) であり、定期試験の問題作成は他の教員が行っていた。その中で12月にあった試験のみ全問題作成を行った。他のクラスとの整合性を考え、配点の半分は知識を問う短答式の問題とし、後半部分には「知識を問うもの」「思考力

を問うもの」「学びへ向かう意欲を問うもの」の三つに分類出題した。もちろんそのすべてが、表現力を観る問題となっている。その一部をここに画像として掲載する。

試験問題作成においては、問題自体よりもループリック作成の方に時間がかかった。それは、このループリックが試験の採点規準となるとともに、受験する生徒の学びの方向性、すなわちここにおける学び方を示すはたらきをするものだからである。



【画像11】テスト例① (表紙と問題・ループリックの一部)

4年次	実力テスト解答用紙	公共
実施日 : 令和5年12月6日	作成担当者 : 藤牧 明	
4年 組 番 氏名		

1

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

2

① 



 50

② 



 50

③ 



 50

④ 



 50

3 



 80

4 



 【図】

5 ①

②

6

【画像 12】テスト例②（解答用紙）

(7) 4年次生(高校1年生相当)の授業に対する感想、意見  
 生徒からの感想、意見の一部(画像)を以下に掲載

する。ただし、作成時期が年度途中のため、年度を通しての感想意見は取れず、授業時の感想となっていることをご了解いただきたい。

生きる	ニュースなどを見るとときに、真逆の視点で書かれているものを両方見て、見比べるようにしたいです。	財政の仕組みやリアルのことを知れてとても面白かった。今までこのように財政のことを詳しく学ぶことはなかったので、興味深い授業になった。	私達は当事者であるという意識をもった上で税金のしくみや使われ方などを知っておかなければならないと強く感じました。	自分が払えない可 資とかし
ることが って完全 母集等を こした  がないた ど言っ る情報・ けを得 まはない か大事だ ど	おばあちゃんがしていた年金制度(?)に怒っている話を思い出した	<b>きょうの授業の感想(財政)</b>	国債などに関してメディアに踊らされないようにしたい	先生が展 とは異な かとい 先生はそ てご存 ためどの 迷ってし 持論を展 から言え く、根拠
てお	税金の使われ方やマスメディアの情報が正しいと限らないことがわかった	日本の累進課税制度を見つめ直すことで、日本のセコさと頭の良さを痛感することができた。日本の様々なシステムについての矛盾点、不審点を見つけるといことはとても大切だと感じた	世の中にはいろいろな情報があふれかえっていて、騙されることもあるかもしれないけど、自分の考えをしっかりと持って、政治に参加したいと思っています。	何を信じ から大学

【画像 13】あるときの授業への感想

## 5. 考察（まとめ）

公共は、これから生きる日本人たちにとって、非常に大切な科目である。この重要な科目が大学受験など目の前にある必要不必要に動かされることなく、一人残らず学ぶことができるようにしていくことが肝要である。そのために、学ぶ意義を感じるようにするとともに、「学ぶたのしさ」とそれぞれ個々人にあった「学び方」「学習方略」を身につけられるような「学びの場」を創っていくことが私たち教員に課せられていると考えられる。

このことは、この公共に限らず、全ての教科・科目に言えることかもしれない。そのための学びの場として、学校、特に授業時間の利用の仕方を考えかつ工夫実践し、努めて続けていかなければならないものである。

### 【注記】

上記は、2023年12月の状況（年度途中）で記述されていることをご了解いただきたい。

文中の「現勤務校」とは、関東近県にある県立の某中等教育学校のことを指している。

### 【参考文献】

- ・ 石井英真『今求められる学力と学びとは』（日本標準ブックレット）2015
- ・ 石井英真『授業が変わる授業評価深化論』（図書文化）2023
- ・ 市川伸一『教えて考えさせる授業』の挑戦（明治図書）2013
- ・ 宇沢弘文『宇沢弘文の経済学：社会的共通資本の論理』（日本経済新聞出版社）2015
- ・ 河口竜行ら編著『シリーズ学びとピーニング①いま授業とは、学校とは何かを考える』（りょうゆう出版）2022
- ・ 川嶋直＋皆川雅樹『アクティブラーニングに導くKP法実践』（みくに出版）2016
- ・ 小林和雄『真正の深い学びへの誘い』（晃洋書房）2019
- ・ 佐藤浩章監訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』（玉川大学出版部）2014
- ・ 佐藤浩章編著『高校教員のための探究学習入門』（ナカニシヤ出版）2021
- ・ ダン・ロスステイン、ルース・サンタナ著、吉田新一郎訳『たった一つを変えるだけ』（新評論）2015
- ・ 奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』（東洋館出版社）2017
- ・ 西岡加名恵、石井英真『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』（日本標準）2019
- ・ 藤牧朗『“深い学び”を促す「アクティブラーニング型授業」と評価を考える～今年度の中等教育学校における実践を中心に～』（法政大学教職課程年報 Vol.20）2022
- ・ 藤牧朗『高校1年物理基礎指導を通し、中高一貫校で学び意義を考える～改訂された学習指導要領の理念を活かした学習指導～』（法政大学教職課程年報 Vol.21）2023
- ・ 藤牧朗『演劇的手法やKP法、グループ学習を交え、授業の中に社会の場を作る』（Career Guidance Vol.414 リクルート）
- ・ 藤牧朗『学び直しゼロ！「3学期の授業」のポイント〔高等学校〕「真正の学び」を実現する「獲得型」の学び』（社会科教育 No.741. 明治図書）
- ・ 藤牧朗『〔公民〕時空を超え、効率的に、深く学ぶ、愉しく学ぶ！』（社会科教育 No.760 明治図書）
- ・ 藤牧朗『〔歴史的分野〕“生きた学び”へ生き活きた「学びの場」を創るICT活用法』（社会科教育 No.767 明治図書）
- ・ 松尾和明『外国につながる児童生徒の学習支援—学習方略に焦点をあてて—』（法政大学教職課程年報 Vol.20）2022
- ・ 森朋子『学習科学入門—「学び」を学ぶ』（放送大学面接授業配布資料）2013
- ・ 渡部淳『教師 学びの演出家』（旬報社）2007
- ・ 渡部淳＋獲得型教育研究会『学びを変えるドラマの手法』（旬報社）2010
- ・ 渡部淳＋獲得型教育研究会『教育プレゼンテーション』（旬報社）2015
- ・ 渡部淳＋獲得型教育研究会『AL型授業が活性化する参加型アクティビティ入門』（学事出版）2018
- ・ 渡部淳『アクティブ・ラーニングとは何か』（岩波新書）2020
- ・ 『高等学校学習指導要領』（文部科学省）2018

# スクールカウンセラーの歴史

——その導入以前の臨床心理学の歴史——

法政大学社会学部兼任講師 安齊 順子

筆者はこれまで、歴史的論文の発掘により、心理学の歴史を書く作業を続けてきた。現在法政大学にて、担当している科目名は『教育心理学』であるが、その理由は筆者が長くスクールカウンセラー活動をしてきたことによる。今回はすでに学校現場において25年以上、四半世紀以上実施されてきたスクールカウンセラーの歴史について改めて紐解き、記載することを本稿の目的とする。

1. スクールカウンセラーが学校に導入されたのは1995年である。当時の文部省（現文部科学省）が「スクールカウンセラー活用調査研究委託事業」を立ち上げ、全国154校にスクールカウンセラーを派遣したことから始まる。

文部科学省はそのホームページで「近年のいじめの深刻化や不登校児童生徒の増加など、児童生徒の心の在り様と関わる様々な問題が生じていることを背景として、児童生徒や保護者の抱える悩みを受け止め、学校におけるカウンセリング機能の充実を図るため、臨床心理に専門的な知識・経験を有する学校外の専門家を積極的に活用する必要が生じてきた。このため、文部科学省では、平成7年度から、「心の専門家」として臨床心理士などをスクールカウンセラーとして全国に配置し（平成7年度 154校）、その活用の在り方について実践研究を実施してきた。」と記載している。

平成7（1995）年の東京都の最初のスクールカウンセラー4名のうちの一人、鶴飼啓子は、当時東京臨床心理士会の担当理事であった滝口俊子に依頼され、人選も行い、自分も東京都のスクールカウンセラーになったと証言している。当時は急に予算が増やされたが、自分は私立高校のスクールカウンセラーをしていたが、こんなにスクールカウンセラーがブームになるとは思わなかった、と証言している（津川他、2007）。本論では、時間を遡り、1995年以前の日本のカウンセリングについて振り返る。スクールカウンセラー活動の開始前には日本には「日本カウンセリング学会」という学会が存在した。以下日本のカウンセリングの歴史と関連する団体について記載する。

## 2. 日本のカウンセリングの歴史について

日本にロジャーズのカウンセリングを最初に広めたのは伊東博であり、伊東は1949（昭和24）年に渡米

しミズーリ大学大学院にて「カウンセリングとガイダンス」を専攻し、修士号を得た。その後帰国し、カウンセリング関係の著作を多く刊行した。武田健（関西学院大学教授）は1966（昭和41）年発行の『カウンセリングの理論と方法』の中で「1956年、著者が留学の途についたころ、我が国にはカウンセリングに関する著作は数えるほどしかなかった。しかし1962年に帰国してみると書店にはカウンセリングのテキストが数多く並び、多くの講習会が開かれ、カウンセリングの発展を心強く感じたものである。」と述べている。この時期の重要な出来事は、茨城キリスト教短期大学のローガン・J・フォックスに促されて、ロジャーズが1961（昭和36）年に来日し、法務省、日本産業訓練協会、茨城キリスト教短期大学、京都大学などでワークショップを行ったことである。他に、1955（昭和30）年には友田不二男が「第1回カウンセリング研究討論会」（別名「大甕ワークショップ」）を開始している。友田は1951（昭和26）年にロジャーズの著作を翻訳している（安齊、2006）。

## 3. 日本カウンセリング学会について

田中熊次郎（1997）によれば、戦後の日本にはカウンセリングとして厚生補導（SPS）が紹介された、とくに大学でのカウンセリング、学生相談の領域にカウンセリングが求められた。1960年に日本応用心理学会内に相談部会が設立された。当初は日本相談学会（仮称）という名称であった。東京教育大学内の教育相談研究施設の長であった田中熊次郎が事務局長となった。御茶ノ水女子大学の松村康平教授が手伝いを申し出た。創立総会は東京教育大学にて1967年（昭和42年）6月に行われた。1967年8月アメリカのウィリアムソン博士を招聘し、日本のカウンセリングの普及発展を願い、講演を実施していただいた。

その後、1987年（昭和62）年5月に日本カウンセリング学会に改称し、同5月25日に国に対し、大学院修士課程におけるカウンセラー養成の要望を行った。

日本応用心理学会についてであるが、『日本応用心理学会史』（1998）によると、1954（昭和29）年に応用心理学会では、「産業心理部会」「犯罪心理部会」「教育心理部会」「臨床心理部会」の4部会制がスタートし、当時は「臨床心理部会」の代表者は鈴木清であっ

た。この「臨床心理部会」と「相談部会」の関係はわかっていない。

鈴木清の『最新相談心理学』（1968）によれば、日本応用心理学会の中に「相談部会」が生まれたのは1961（昭和36）年であり、1967（昭和42）年に「日本相談学会」が設立したことを述べている。この学会が「日本カウンセリング学会」となり、雑誌名も『カウンセリング研究』となった（1987年10月より雑誌名は『カウンセリング研究』第20巻第1号として刊行されている）。学会ホームページによれば、現在の会員数は約3,500名とのことである（2023年12月調べ）。

#### 4. 「教育相談」という用語について

ここで、1997年に日本カウンセリング学会で行われたシンポジウム「学校における教育相談」の中の手塚光善の発言を紹介する（手塚、1997）。「1960年半ばから約10年間、教育相談の盛んな時期があったが、結局学校現場への定着は図られなかった」「教師が二足のわらじを履く形で、、、学校内部から排除作用が起り、、、」とあり、ある時期学校内部で教育相談を行おうという機運があったが、学校内部から排除作用が起こったことが述べられている。手塚「教師が学校と言う場で教育相談の専門性を闇雲に深めることはとすると教師としてのアイデンティティを揺るがす」と述べ、二足のわらじの危険性に触れている。日本においては、カウンセリングは教育の場（まず大学）に導入されたが、教師が研修を受け（内地留学で大学院、あるいは県の総合教育センターで教育相談の研修を受ける）カウンセリングを行う形がかつては一般的であった。その研修後、学校現場に戻った時にカウンセリングを実施しようとすると、先の排除作用が起こることが述べられている。日本カウンセリング学会に所属したのは教師ばかりではないが、「カウンセラー」として学校に採用されている人がいない時代には、教師が「カウンセラー」の役目を果たすしかなく、またその試行錯誤が続けられていた。

#### 5. 日本心理臨床学会とはなにか

スクールカウンセラー事業において指名された「臨床心理士」の資格に主に関わっている、日本心理臨床学会について解説する。この学会は1982年（昭和57年）に九州大学で第1回が実施されている。そのルーツは、1978年の日本心理学会第42回大会が九州大学で行われ、その時の『心理臨床家の養成・資格問題』に関するシンポジウムで田畑治は「大学の養成の立場」から発言し、その学会内で「心理臨床のタベ」という会合が持たれた。1981年（昭和56年）には滋賀県大

津市ホテル紅葉で「心理臨床研究集会」がもたれ、この会合が学会設立の機運となった。

その後6年間の検討をへて、1988年（昭和63年）3月8日「日本臨床心理士資格認定協会」が設立された。日本学術会議の承認する学術団体として成立をみている日本心理臨床学会等、日本の臨床心理学に関連する学会16団体からの基金の拠出により「日本臨床心理士資格認定協会」が設立されたのであった、日本心理臨床学会が単体で作った資格ではなかった。

この団体の起源となっている研究グループは、1977（昭和52）年に誠信書房から河合隼雄、佐治守夫、成瀬悟策の三名が著者である『臨床心理ケース研究1』が刊行されているが、この三名とその協力者、事例提供者などであると考えられる。日本心理臨床学会の会員数はホームページによれば2018年の段階で約29,000人である。

#### 6. スクールカウンセラーの役割

再び、文部科学省ホームページによれば、「スクールカウンセラーは、1～7のような児童生徒が抱える問題に学校ではカバーし難い多くの役割を担い、教育相談を円滑に進めるための潤滑油ないし、仲立ち的な役割を果たしている。

（1）児童生徒に対する相談・助言（2）保護者や教職員に対する相談（カウンセリング、コンサルテーション）（3）校内会議等への参加（4）教職員や児童生徒への研修や講話（5）相談者への心理的な見立てや対応（6）ストレスチェックやストレスマネジメント等の予防的対応（7）事件・事故等の緊急対応における被害児童生徒の心のケア

スクールカウンセラーが相談に当たる児童生徒の相談内容は、不登校に関するものが最も多いが、いじめ、友人関係、親子関係、学習関係等多岐にわたっており、近年は、発達障害、精神疾患、リストカット等の自傷やその他の問題行動などますます多様な相談に対応する必要性が生じている。」

このように述べられている。また、教育相談を円滑に進めるための役目を果たしているとされている。また、発達障害、精神疾患、リストカットなどの複雑な事象に対応することも明記されている。精神疾患やリストカットへの対応は、臨床心理学ないしは精神医学の知識や経験が必要となり、かなり専門的な仕事である。スクールカウンセラーに採用されるものの資格であるが、以前は臨床心理士がその中心であったが、2018年よりは「公認心理師」がその資格の筆頭に位置付けられた。

これまで日本のカウンセラー資格では、大学院修士課程修了を義務付けた「臨床心理士」の活動が中心的

と考えられてきたが、2018年秋に国家資格である「公認心理師」の第1回試験が行われた。その後継続して年1回の試験が実施されている。四年制大学において、公認心理師受験資格要件を満たす「大学における必要な科目」の単位をすべて修得し卒業した上で、大学院において「大学院における必要な科目」の単位をすべて修得して修了、あるいは、「法の規定する認定施設」にて2年の実務経験を経て試験に合格した者が資格を保持する。この公認心理師の誕生により、医療現場では、「心理検査」の保険診療点数化が促進され、精神科や総合病院での公認心理師の雇用も、今後より増加する可能性が高い。法政大学では現代福祉学部で過去15年以上、臨床心理士の養成が現在に至り続けられており、公認心理師受験要件を満たすための授業と教育も行われている。

スクールカウンセラーの歴史は日本におけるカウンセリングの歴史の中で重要なターニングポイントであるだけでなく、カウンセラーの資格の変遷にも関わる重要な問題である。

## 7. 『臨床心理学』のテキストから

藤永保・三宅和夫・山下栄一・依田明・空井健三・伊沢秀而編、『臨床心理学』（テキストブック心理学（7））（1979・昭和54）によると、対象別に見た心理臨床の章では「精神薄弱」「情緒障害」「犯罪・非行・嗜癖・自殺」「精神病」と分類されている。子供の不登校などはあえて言えば、「情緒障害」に分類されるだろうか。子供の情緒の不安定、情緒の未発達を想定されている分類である。臨床心理学の対象として「精神病」があり、これは現在でいうところの統合失調症などが想定される。1979（昭和54）年はまだ臨床心理士の資格認定がなされていないときであり、日本の心理士についてテキストでは触れられていないが、臨床心理学の範疇として「精神病」が記述されているのはおそらく、アメリカの臨床心理学のテキストを参考にしているからだと考えられる。この時期の精神医学の分類法は、まだDSMとその翻訳が現れていない時期であり、心因、内因、外因の精神病分類法が用いられていた時期である。このテキストは先にのべた河合隼雄、成瀬悟策も執筆しており、ここで想定されている「臨床心理学」をベースにその後の資格が検討されていったと想定される。テキストブックの序文には「とにかく、我々は臨床心理学の“教科書らしい教科書”が欲しかった」とあり、それまで翻訳などで紹介されていた臨床心理学が各大学の授業として徐々に開講され、テキストが必要となった流れが述べられている。

## 8. まとめ

これまで述べてきたように、スクールカウンセラーの導入以前に日本にはカウンセラーの歴史、臨床心理学の歴史が存在していた。一見教育の世界では「異質」であり「黒船」のように言われていたスクールカウンセラーではあるが、日本における特に小学校中学校高校時代の子供の心理的発達、その臨床心理的問題についての研究や実践が、一例として「情緒障害」研究として行われてきたことが背景として認められた。また、スクールカウンセラー導入時期のころの教師カウンセラーの悩みとして、「教師とカウンセラーの二足のわらじ」が大変であること、教師が「カウンセリング」を学ぶと現場からの「排除」が行われることなどが挙げられていた。

これまで筆者が過去に論文として記載してきた教育心理学の歴史との関係はいまのところ判然としない。大きくは心理学のカテゴリー内部にあるが、臨床心理学と教育心理学は科目名が異なり、教育心理学は明治時代からの歴史を持つが、臨床心理学という科目の紹介と発展は第二次世界大戦後である。カウンセリングの学会については、応用心理学会が関係を持っているが、この連続性を記載することは今後の課題とする。スクールカウンセラーの制度が実際に運用されていく中で、臨床心理士や当時カウンセラーとして働いていた人々はいかにして教育現場に慣れ、実践を繰り広げていったのか。それについての文献史的検討は今後の課題とする。

## 文献

- 安齊順子・鈴木朋子・中谷陽二 2006 第二次世界大戦後の日本臨床心理学の萌芽—鈴木清を中心に—心理学史・心理学論、Vol17・8合併号、25-37。
- 藤永保・三宅和夫・山下栄一・依田明・空井健三・伊沢秀而編 1979 臨床心理学 有斐閣
- 伊東博 1963 カウンセリング入門改訂版 誠信書房
- 河合隼雄、佐治守夫、成瀬悟策編 1977 臨床心理学 ケース1 誠信書房
- 日本応用心理学会（編）1998 日本応用心理学会史—学会活動の変遷 回顧と展望
- 鈴木清（編）1969 最新相談心理学 文教書院
- 田中熊次郎 1997 「カウンセリング学会の歴史(初期)」カウンセリング研究、第30巻第3号 p307-314。
- 武田健 1966 カウンセリングの理論と方法 理想社
- 手塚光善 1997 「学校教育において教育相談とはなにか」（シンポジウム 学校における教育相談—教師の使えるカウンセラー—平成8年12月15日国立教育会館）カウンセリング研究、第30巻第1号、p69。



津川律子・安斉順子編 2007「インタビュー臨床心理  
士2」(3) 鶴飼啓子 (p45-73) 誠信書房

## 1 はじめに

「地理総合」が必修科目となったが、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）地理歴史編」によると「地理総合」は、「①持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察することに加えて、②グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察すること、③地図や地理情報システム（Geographic Information System 以下、GIS と略す）などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得することの三点を科目の主要な特徴として構成することとした」と記述されている。また、「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ」の部分では、「(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。」と記述されている。<sup>1</sup>

そこで、本稿では上記③に関して、高校生でも活用しやすい地理情報の Web サイトを利用した「地理総合」の授業を考えることとする。

## 2 自然地理分野と防災学習

### (1) 地形

高校学習指導要領では、自然地理分野に関し「地理的な考え方」の基本として、「そうした地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかわりに着目して追究し、とらえること。」とされ、「環境条件と人間の営みとのかわりに着目する」とあり、

ここに社会科系科目として自然環境を学ぶ意義が存在する。つまり単なる地形や気候の形成過程や特質などを学ぶだけでなく、地域に今まで人間がどのように関わってきたのか、あるいは現在関わっているのか、

という視点を常に持たなければならない。

まずは、地形学習をする上で活用できる「国土地理院地図」のサイトを使用した授業を考えてみよう。「国土地理院地図」<sup>2</sup>は、国土地理院のサイトで、地形図、航空写真、標高、地形分類、災害情報など、日本の国土の状況を発信するウェブ地図であり、地形図や写真の3D表示、距離や面積の測定なども可能である。検索サイトで、地理院地図で検索すれば簡単に閲覧することができる。

ここでは、例として地形のうち扇状地を取り上げることとする。扇状地で教科書によく取り上げられるのが、山梨県甲州市と一宮町の境界付近の京戸川が形成した扇状地であるので、ここを例としてみよう。

まず、サイトを開き画面の最上段に住所（都道府県市町村名程度で検索できる）を入力すると、地図が出てくるので、縮尺を変えて見やすい大きさにして準備をする。次に、まず扇状地の特徴といえば扇状の形状となだらかな傾斜であるが、形状は地図をみれば一目で確認できる。そこで傾斜を確認してみる。画面右上の「ツール」をクリックすると、作図、計測、断面図などの作業内容が出てくるので、断面図を選択する。すると起点と終点を指定するように指示されるので、指定通りにすると断面図が描かれる。断面図は高さや距離の比率を変えることもできる。事前に扇状地の授業を行っていれば、起点となる扇頂と終点となる扇端の場所を生徒は容易に指定することができよう。アクティブ・ラーニングを考慮すれば、生徒にどこが扇端にあたるのか、その理由はなぜかと発問してもよい。扇端は扇状地の最下部であるが、扇状地の中央部分（扇中央）で伏流した河川の水が再び湧水し地表面に出てくるところで、そのため水の便がよく、古くから集落が発達したり、水田が形成された場所である。地形と人間の営みのかかわりが端的に表れた場所と言えよう。

さらに、断面図上にカーソル（矢印）を合わせれば、その地点の標高も示されるので、起点と終点の標高を読み取らせ、次に「ツール」に戻って計測を選択し、地図上で先ほど指定した起点（扇頂）と終点（扇端）を指示通りに指定すれば2点間の距離の計測もできるので、距離と標高差から勾配の計算もできる。面積も計測できるので、扇状地の面積を計測することもでき

1 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編 平成30年7月』 p 35、37

2 地理院地図 GSI Maps 国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/>)

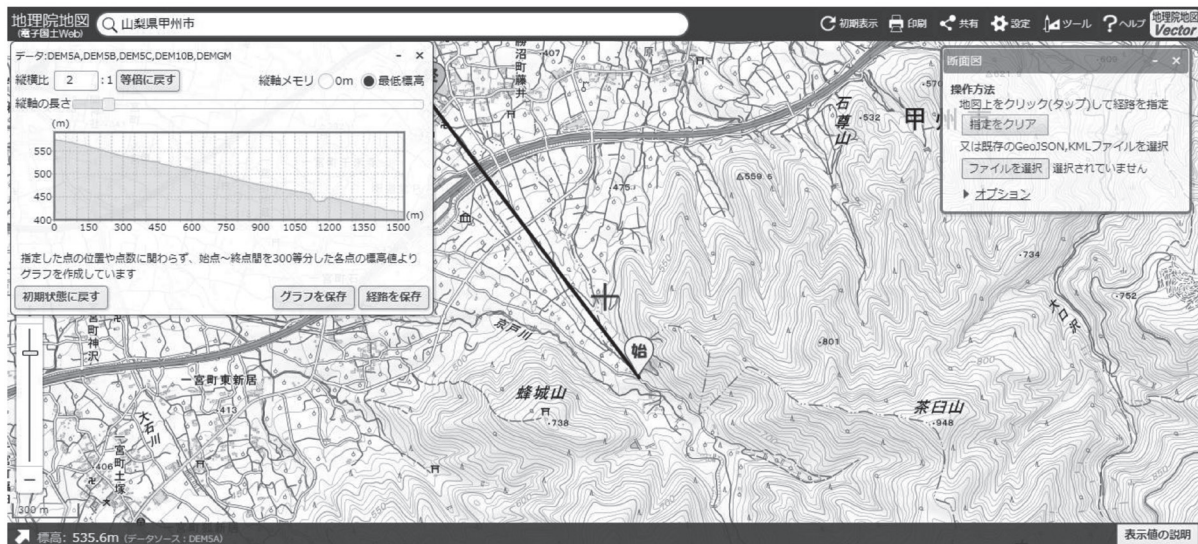


図1 扇状地の断面図（山梨県一宮町京戸川周辺）

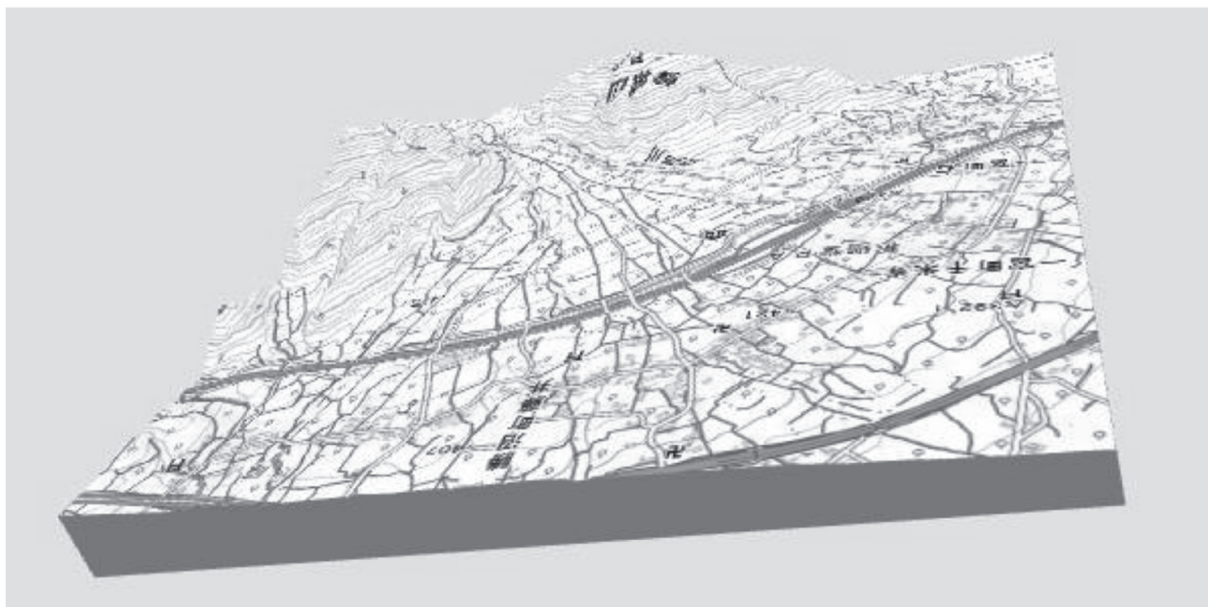


図2 図1の範囲の3D図

きる。

次に「ツール」から3Dを選択し、カスタムで任意の範囲を指定すれば、3Dで表された扇状地が映し出され、自由に角度を変えてみるができる。また、左上で方位を指定し東西南北からの視点で見ることができ、縮尺もマウスを使えば自由に変更できる。3D図を使用すると、山に挟まれた狭いところから平地に京戸川が流れ出て、扇型に運搬してきた土砂を堆積させた様子が容易に理解できるだろう（図2参照）。ここまででも扇状地の形状の特徴を理解できると思うが、さらに左上の「地図」をクリックし、「色別標高図」や「陰影起伏図」をクリックすると、高度差や地形の起伏が見やすくなり、生徒の理解を助けることになる

だろう。「色別標高図」は標高により色を自分で設定することもできる。地形図をよく見ると、扇頂で河川が幾筋にも分流している様子がわかる（図1参照）。

さて、地形と人間の営みのかかわりについてだが、「国土地理院地図」は地形図なので、土地利用を地図記号で確認することができる。するとこの地域は果樹栽培が盛んな地域であることが、扇中央から扇端まで果樹園の地図記号が広がっていることでわかる。また、扇端の扇型に沿って道路が通り、一宮町石、一宮町千米寺、勝沼町藤井という集落を結び、それらの集落の周辺に寺や神社の地図記号があることから、集落がほとんどない扇中央部と比較して、先端部では古くから集落が立地していたことが予測できる（図1参照）。

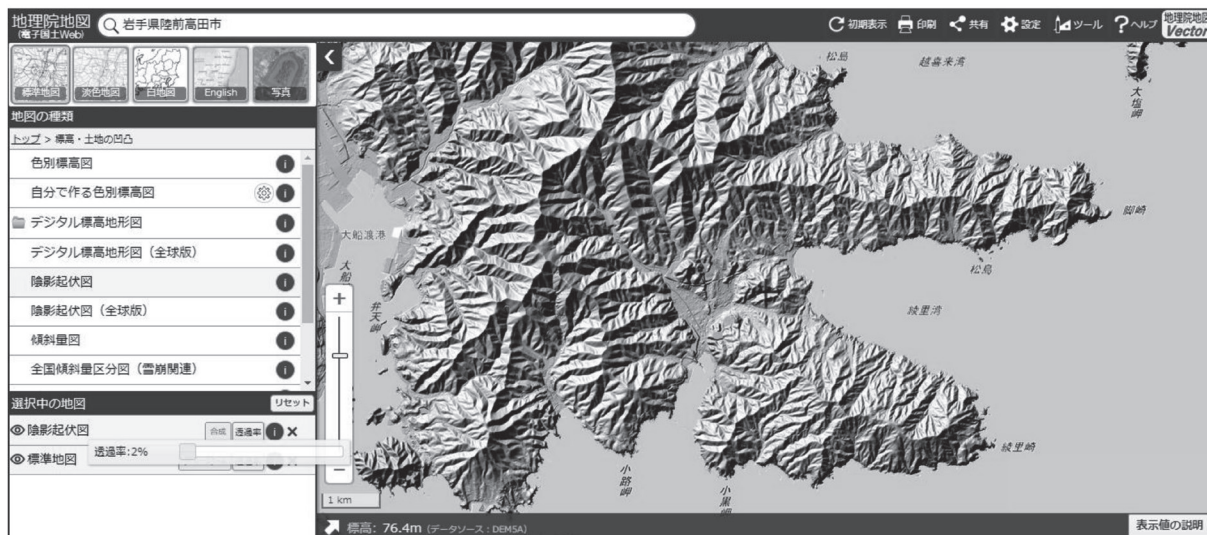


図3 リアス海岸の陰影起伏図（岩手県大船渡市付近）

さらに土地利用の変化を把握するには、地理院地図の右上の「地理院地図 Vector」をクリックすると、左側にいくつかの選択画面が出てくるが、その中の「写真」を選択すると航空写真を見ることができる。その下にある「地図や写真を追加」をクリックすると、年代別の航空写真を見ることができる。これを利用すれば土地利用の変化を理解することもできる。ただし、地域によって航空写真が各年代で存在しない場合もあるので、注意が必要である。また、「地理院地図 Vector」から「地図や写真を追加」を選び、さらに「土地の成り立ち・土地利用」をクリックし、その中の「地形分類」から「自然地形」をクリックすると、画面の地域の自然地形が表され、地図中の任意の場所をクリックすると、その場所の地形の説明が出てくるので、どのような地形なのか理解することができる。

また、リアス海岸などを教える場合には、「地理院地図 Vector」から「地図や写真を追加」、「陰影起伏図」を選択すると、山地と平野が明瞭にわかり、リアス海岸の特徴である山地のV字谷が浸水し、後背地の狭小さを理解することができる。さらに河川が山地を刻む様子が明瞭にわかり、水系図の理解の援助にもなるだろう（図3参照）。それ以外にも多くの項目を利用することができるので、時間に合わせ生徒にいろいろと試させてみるのもよいだろう。

さて防災の面からは、「地理院地図 Vector」から「地図や写真を追加」を選び、さらに「土地の成り立ち・土地利用」から「近年の災害」を選択すると、日本全国の近年の災害を「地震」、「台風・豪雨等」、「火山」

から選択でき、それぞれ近年起こった災害別に詳細な情報を見ることができ、自然災害伝承碑や避難場所を見ることができるので、防災教育に活用できる。

## （2）気候

次に気候に関するサイトを利用した授業を考えてみよう。気候には気温・降水量・風という「気候の3要素」と言われる基本がある。そのうちまずは気温と降水量について見てみることにする。それには雨温図やハイサーグラフ（クライモグラフ）を利用すると理解しやすい。

日本国内の場合には、埼玉大学谷謙二研究室のサイトが使いやすい。<sup>3</sup>サイトの画面の左側中央部のサンプルのところで、見たい地点を選択するだけで自動的に雨温図が作成される。また、雨温図とハイサーグラフを選択することもでき、グラフの降水量や気温の数値を自由に変えることができるので、見やすいグラフの作成が可能である。

世界の場合は、東京書籍のサイト<sup>4</sup>が使いやすい。世界各地245地点と日本各地83地点を、2地点を並べて表示するため比較検討しやすい。これらのサイトを利用し生徒自身が雨温図を作成するという作業を行うことでより理解が進み、また生徒に自由に作成する時間を与えれば、授業では取り上げなかった世界や日本各地の雨温図を容易に作成できるため、生徒の興味・関心を広げるというメリットもある。

次に風についてである。風には大別して恒常風、地方風、局地風があるが、それぞれ地域の気候に大きな

3 埼玉大学谷謙二研究室 <https://ktgis.net/service/uonzu/index.html>

4 東京書籍 [https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/digi-contents/chu/shakai/shakai\\_c\\_025\\_00/start.html](https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/digi-contents/chu/shakai/shakai_c_025_00/start.html)

## 雨温図作成サイト 谷謙二研究室 (埼玉大学教育学部人文地理学) 2017/3/23

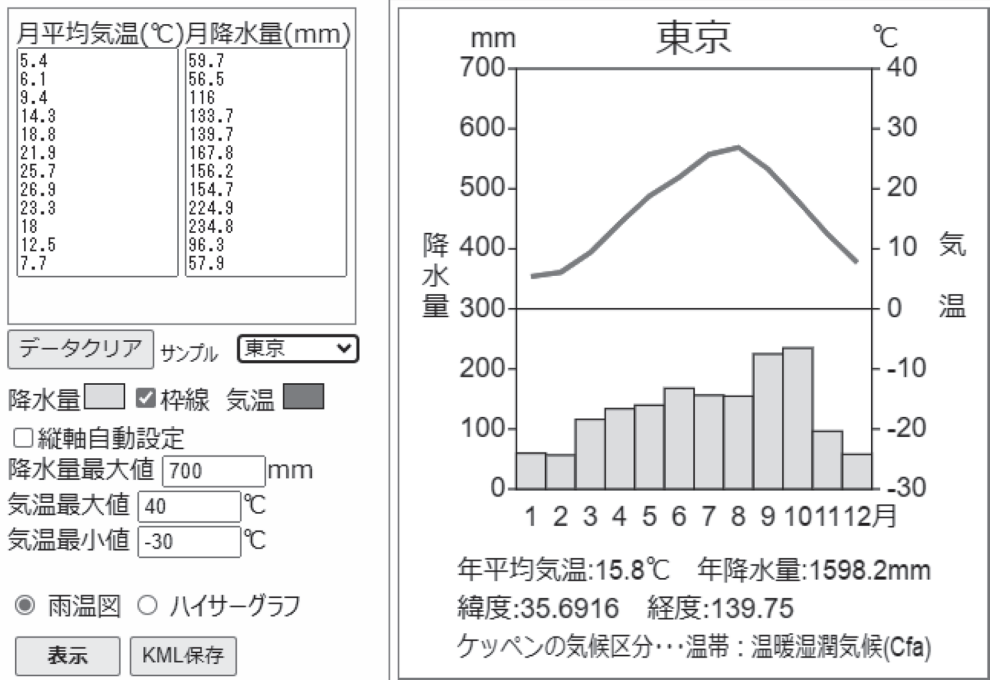
地点名  緯度  経度  (南緯、西経の場合は-をつけて下さい)

図4 東京の雨温図 (埼玉大学谷謙二研究室サイト)

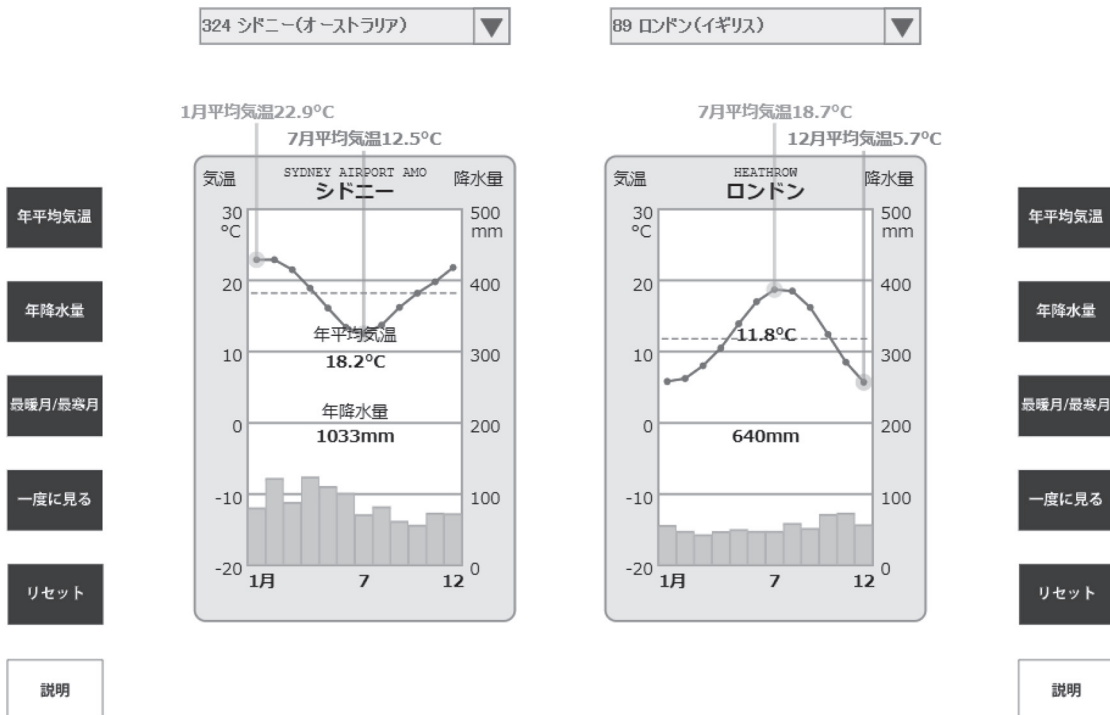


図5 世界の雨温図 (東京書籍サイト)

影響を与えている。そこで風向を理解することが地域の気候の特質を理解することに大いに役立つ。例えば、ヨーロッパは高緯度のわりに年間を通して気候は温暖であるが、これはヨーロッパの西側を流れる暖流である北大西洋海流上の温暖な空気を、年間を通して風向きが変わらない恒常風である偏西風がもたらすためと考えられる。そこで「earth：地球の風、天気、海の状況地図」というサイト<sup>5</sup>を使い、ヨーロッパの風の動きを夏季と冬季で確認してみる。「earth」のサイトを開くと、地球全図が出てくるので見たい場所をサイト上で回転させて正面にし、地図を拡大する。次に画面左下の earth をクリックすると、様々な項目が出てくるので、これで見たい時期や風速、高度、温度などを設定することができる。ただし高度は hPa（気圧）で示されるので注意が必要である。1000 hPa は高度約 115m、850 hPa は約 1,500m、500 hPa は約 6,600m、250 hPa は約 14,000m、70 hPa は約 30,000m となる。

では、ヨーロッパの夏季と冬季の風向を確認してみよう。まず操作の左から 2 つめのカレンダーマークをクリックし日にちを指定する。例えば 2023 年 7 月 1 日と 12 月 31 日をそれぞれ比較してみよう。7 月 1 日で Mode を大気圏、動画を風速、高度を地上、レイヤーを風速にすると、大西洋からイギリス、スペイン、フランスなどに西風が吹きつけていることがわかる（図 6-1 参照）。日付を 12 月 31 日に変更すると、やはり大西洋からスペインやフランスなどに西風が吹きつけているが、その風が北上し、イギリス東部からベネルクス 3 国あたりには南風がふきつけていることがわかる。つまりヨーロッパは年間を通して西風が卓越していることが理解できる（偏西風）。また、高度を変えて 850hPa（約 1500m）にしてみると、地上付近と風向きはほとんど変わらないが風速が速くなっていることがわかり、偏西風は比較的上空を吹く風ということも理解できる。ちなみに高度を 250hPa（約 14,000m）にするとさらに風速が速くなりジェット気流であることが理解できる。風速はスケールの部分の色で示されており、地図上の風の色に相当する色をスケールの色の部分にカーソルを置くと画面右下に実際の風速が示されるので、高度による違いを簡単に比較することができる。レイヤーを気温にしたり相対湿度にすることもできるので、いろいろな要素から地域の特質を理解することもできる（図 6-2 参照）。

今度は地図を日本付近にして、8 月 10 日と 12 月 31 日を比較してみよう。8 月 10 日の地上付近の風を見ると、太平洋北部に高気圧が発達し、そこから吹き出した風が日本列島の太平洋側に吹きつけているのが

わかる。また、小笠原諸島付近に台風が形成されているのがわかる。レイヤーを気温にしてみると、高度地上では、シベリア中部から東部にかけて赤色となって気温が高い一方、ほぼ同緯度のオホーツク海周辺は緑色で気温が低く、陸地は熱せられやすく、海洋は熱せられにくいという特質を理解することができる。

12 月 31 日の地上付近の風を見ると、シベリア東部から吹き出した風がサハリン海峡から日本海へ向けて北風となって吹き、日本海で北西へと風向きを変えて日本海沿岸に吹きつけているのと、中国東北地方から吹き出した風が黄海を通過して九州や西日本の日本海側へ吹きつけているのがわかる。高度を変えると高くなればなるほど風速が強まり風の密度も高くなっていることがわかる。このことから、日本列島付近は、夏季は太平洋からの風、冬季はユーラシア大陸～日本海からの風向となっており、夏季は海洋から陸地へ、冬季は陸地から海洋へと季節により風向きが逆になる季節風の影響が強いことが理解できる。

レイヤーには風速、気温以外にも湿度や体感温度などもあるので、時間が許せばいろいろと生徒に試させてみればさらに理解が深まるであろう。

ちなみに、日付は風向等が明瞭で見やすい日付を使用するのがよいだろう。数日分を見て判断して欲しい。

### （3）防災

防災学習は中学の社会科地理的分野、高校の「地理総合」ともに重要な分野に位置づけられている。防災学習に使用できるのはもちろんハザードマップであり、現在では市区町村ごとに、また地震や津波などの災害ごとに詳細なハザードマップが作成されていることはよく知られている。ここではハザードマップについては具体的には触れないが、ぜひ授業では実際に居住地付近または学校付近などのハザードマップを見せて、どのような災害が想定されているのかを確認して欲しい。

さて、前出の「国土地理院地図 GSI Maps」には、「自然災害伝承碑」という項目がある。地理院地図のサイトの左側に「災害伝承・避難場所」があり、これをクリックするとさらに「指定緊急避難場所」、「自然災害伝承碑」などがあって、さらにクリックすると地図上にそれらのマークが現れる。ここでは「自然災害伝承碑」を見てみよう。地図上に現れた自然災害伝承碑のマークをクリックすると伝承碑の写真が映り、その写真をクリックすると災害の詳細な説明が映る。例えば市ヶ谷キャンパスの近辺では、日本武道館の入口付近に「昭和天皇御野立所の碑」というのがあり、関東大震災の

5 earth：地球の風、天気、海の状況地図 <https://earth.nullschool.net/jp/>

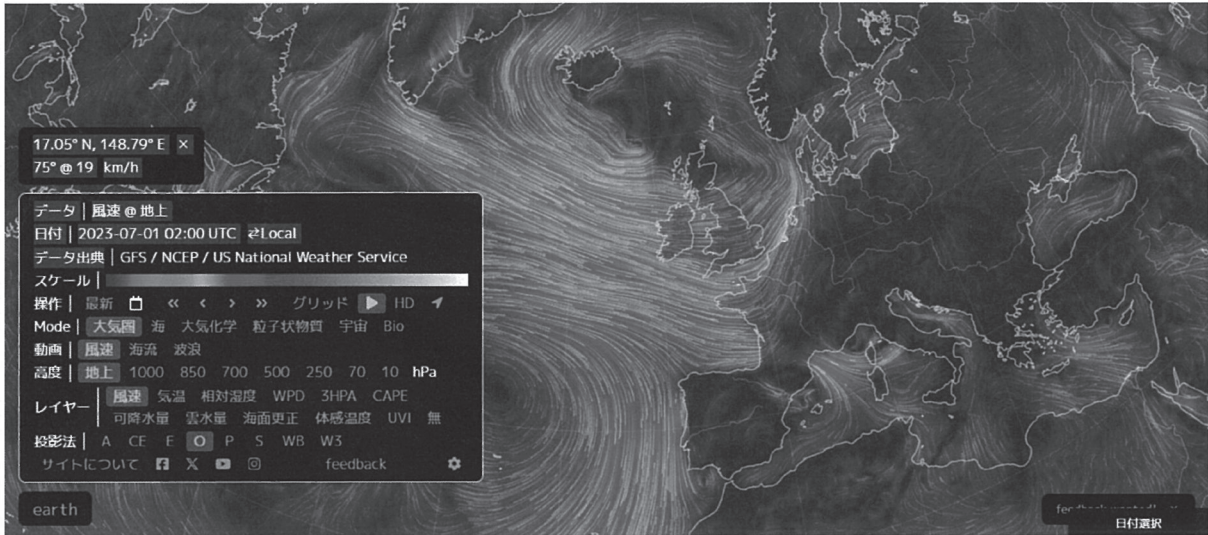


図 6-1 ヨーロッパの夏季の風向 (2023年7月1日)

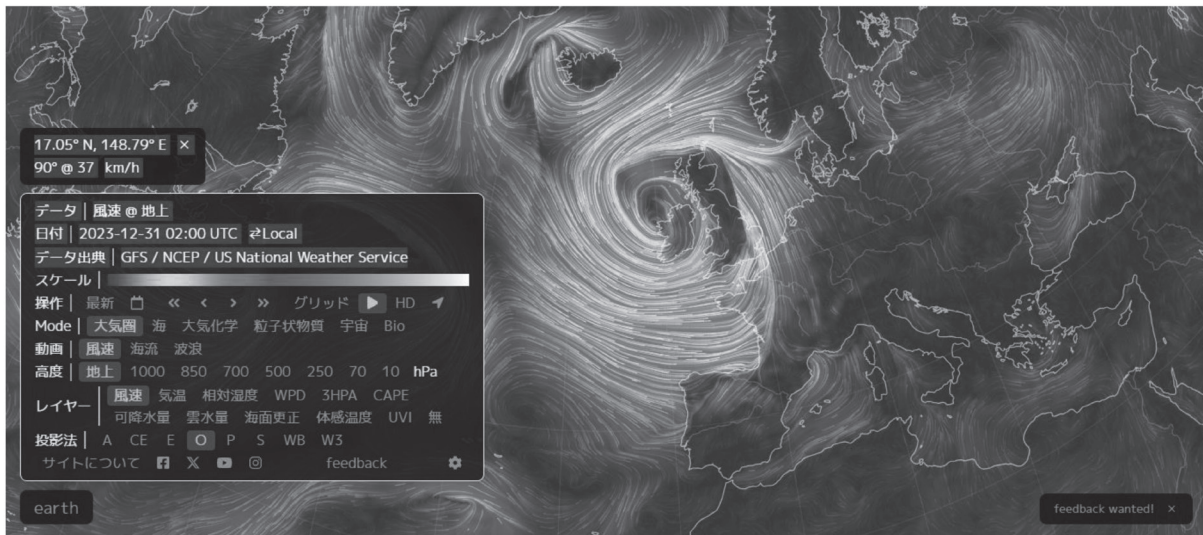


図 6-2 ヨーロッパの冬季の風向 (2023年12月31日)

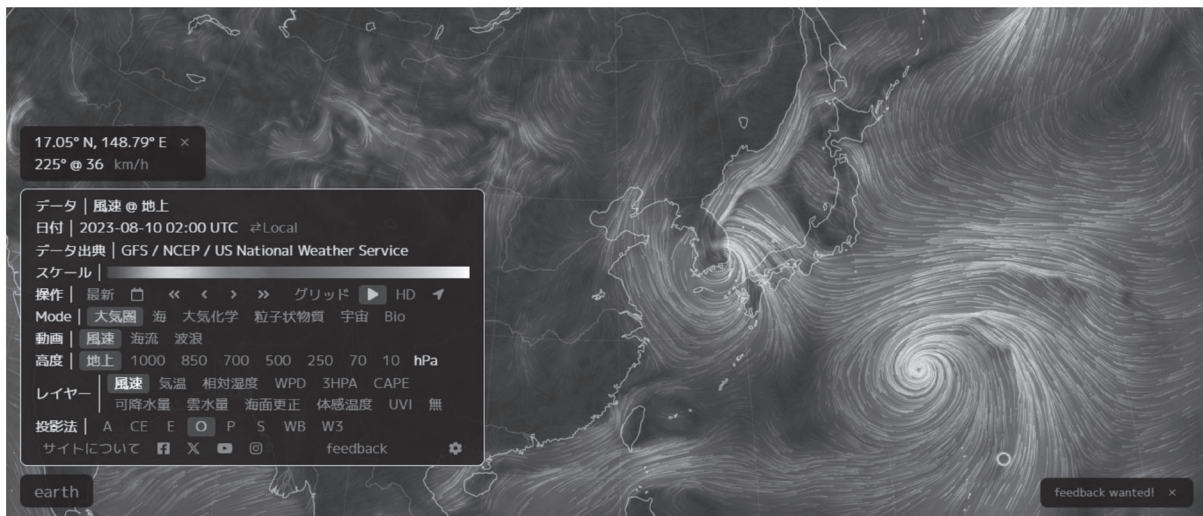


図 7-1 日本の夏季の風向 (2023年8月10日)

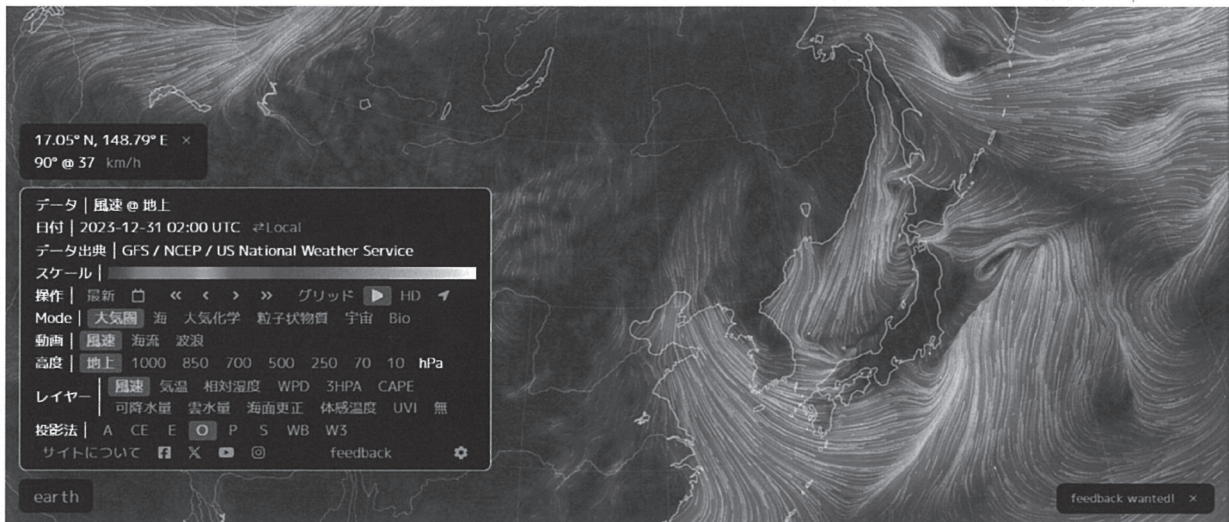


図7-2 日本の冬季の風向 (2023年12月31日)

復興状況を視察された昭和天皇が最初に立ち寄った場所という説明が書かれている。東京都区内の場合は関東大震災関連の伝承碑が多いが、両国駅南側には「天明3年浅間山噴火(1783年8月4日)」の災害伝承碑を見ることができる。また、狛江市の多摩川左岸には、「多摩川決壊の碑」(1974年8月31日～9月3日の多摩川水害)がある。これらの災害伝承碑を確認することによって、対象とする地域にはかつてどのような災害が起こっていたのかを知ることができ、その地域では再び同様な災害が起こる可能性があるということを認識でき、防災教育に利用できる。

### 3 人文地理分野

#### (1) 新旧地形図の比較

現行の中学および高校学習指導要領では、地域調査の項目が必ず入っている。また前述の通り高校学習指導要領には、「(前略)地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。」「環境条件と人間の営みとのかかわりに着目する」という記述がある。これを人文地理の分野に当てはめれば、地誌や地域調査の項目を扱う時に、対象地域において人間がどのような営み、生活を行ってきたのかを考えることが必須であるといえる。そのためには古い地形図と現代の地形図を比較し、「そこでどのような土地利用がなされてきたのか、現在はどのような土地利用がなされているのか、そしてなぜそのような土地利用をしているのか」を考察することが必要となる。そこで、ここでは古い地形図を活用した授業を考えること

にする。

古い地形図は「国土地理院地図」でも見ることができる。ただし、地域的に限定されてしまい、また年代的にも限定されてしまうので使いづらい面がある。しかしながら空中写真は比較的に見やすいので、空中写真で土地利用の変化を考察することもできるが、やはり地域、年代ともに限定されてしまう。そこで、気候でも紹介したが埼玉大学の谷謙二研究室が作成した「今昔マップ on the web」<sup>6</sup>が、授業では使いやすい。例えば、大学のある市ヶ谷周辺を例にすると、まずサイトを開き、画面上部の検索画面で東京都千代田区市ヶ谷と入力して検索すると市ヶ谷周辺の地図が現れる。今昔マップの使いやすいところは、画面が2分割になり現在の地形図と古い地形図が容易に比較できるところである。画面の左上部を見ると1、2、4画面と選択できるようになっているので、大きい画面で見たいときには1を選択すればよい。その下に年代があるので見たい年代を指定すれば、左画面にその時代の地形図が映し出される。さらに任意の2点間の距離を計測することもでき、左の画面をクリックするとその地点の緯度や経度、標高など詳細な説明が出てきて、その中の「距離計測」をクリックしてあらためて左画面上で計測したい場所を2点それぞれクリックすると、距離が出てくる。「他の地図サービスで表示」を選択するとグーグルのストリートビューなどもみることができる。さらに、画面左側で「重ねる地理院タイル」をクリックすると「色別標高図」「陰影起伏図」「傾斜量図」が出てくるので、見たいものをクリックすれば左画面上に映し出される。さらに地図不透明度を0%にすれば現在の地形図に、100%にすれば選択した年代の地形

6 今昔マップ on the web <https://ktgis.net/kjmap/>



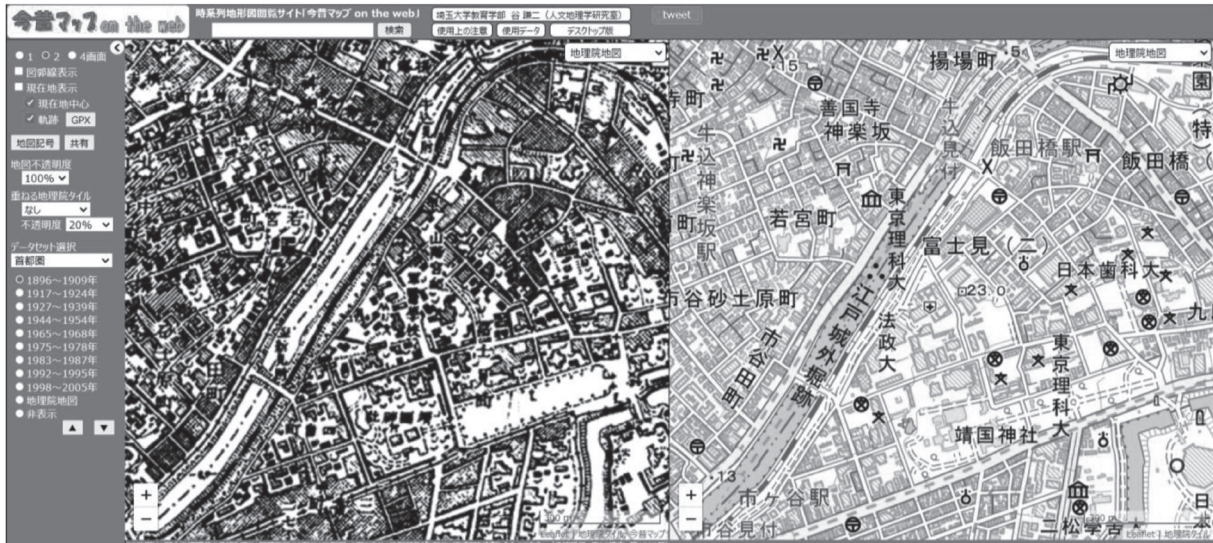


図8 今昔マップ on the web 明治後期（2万分の1）市ヶ谷周辺図

図に色別標高図や陰影起伏図などが映し出される。「重ねる地理院タイル」の不透明度を調整し見やすい地図を選択することもできる。

さらに古い地形図については、地域的には関東、名古屋都市圏、関西に限定されるが、沼津工業高等専門学校教養科佐藤崇徳研究室（地理教室）の「ウェブ地図コンテンツ集」の「ウェブで過去の地形図や空中写真を見る（Leaflet版/OpenLayers版）」が使いやすい。まず、検索サイトで「沼津高専ウェブ地図」で検索すると「地理@沼津高専 - ウェブ地図」<sup>7</sup>が出てくるので、それを開き、「ウェブで過去の地形図や空中写真を見る」をクリックすると、画面に日本地図と右側に見ることのできる年代別の地形図（2万5千または5万分の1）、空中写真が出てくるので、これをクリックすればすぐに見ることができる。右下に「地名（住所）で地図を検索」があるので、ここで場所を指定でき、地図の縮尺を変えて地図からも場所を特定することができる。とくにこのサイトの場合は、古い時代の地図が豊富なのが特徴で、明治初期の迅速測図から明治後期（2万分の1）、明治大正（5万分の1）、1920年頃、30年頃、50年頃、70年頃（いずれも2万5千分の1）が選択できる。ただし70年頃より以降は現在の地形図になってしまうが、その間は75、80、85、90年の空中写真はみることができるので、空中写真を使った変化を読み取ることはできる。また、地形の段彩陰影図もあるので、大まかな地形の起伏を把握するにはよい。

これらを見ると、市ヶ谷付近は陸軍省所轄地や外堀

の西側には陸軍士官学校があり、軍事関連の機関が集積していた地域であったことが理解でき、地形的には台地上で地盤が強固なこと、江戸時代には大名屋敷や旗本の屋敷が多く、比較的広い土地を確保しやすかったこと、何より皇居（江戸城）など都心に近接していたことなどが、軍事関連施設が集積した理由と考えられる。一方多摩キャンパスは丘陵地を切り拓いたもの、小金井キャンパスは1950年頃までは台地上の桑畑や雑木林が広がる地域で、住宅地開発も進んでいなかった様子が見える。

その他、このサイトでは過去の空中写真を現代の地形図に重ね合わせたり、日本の気候や日本の人口を地図で表したものなどもあるので、いろいろと活用することができる。

これらのサイトは、できるだけ時間を確保して生徒に様々な地域や年代を見て欲しいものである。

## （2）産業

地誌を学習したり地域調査を行う場合には、対象地域が農村地帯なのか工業地域なのか住宅地なのかという特質を把握する事前学習が必要である。そこで「RESAS 地域経済分析システム」のサイト<sup>8</sup>を使用すると、地域の特質を把握しやすい。検索サイトで「リサーチ」と入力すればすぐに見ることができる。

まずリサーチの画面左上部の「マップを選択してください」をクリックすると、「人口マップ」、「地域経済循環マップ」、「産業構造マップ」、「企業活動マップ」、「消費マップ」、「観光マップ」、「まちづくりマップ」、「医

7 地理@沼津高専 - ウェブ地図 <https://user.numazu-ct.ac.jp/~tsato/webmap/>

8 RESAS 地域経済分析システム <https://resas.go.jp/#/13/13101>

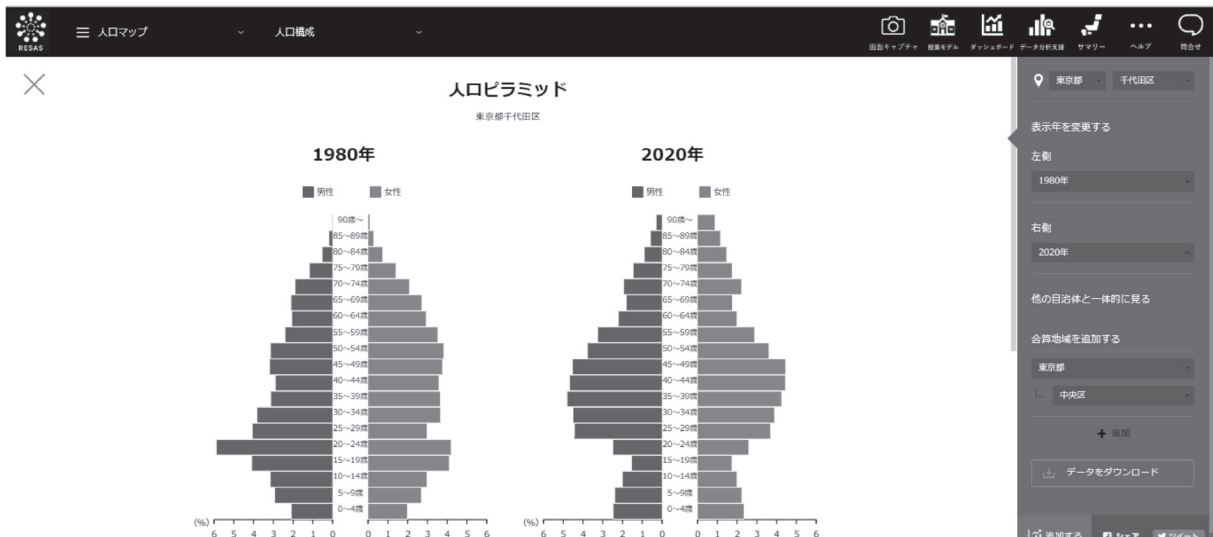


図9-1 RESAS 千代田区の人口ピラミッド 1980年と2020年の比較

療・福祉マップ」「地方財政マップ」が出てくるので、このうちのどれかを選択する。様々な項目を選択できるが、地域の基本的な特質を把握するのであれば、まずは人口と産業構造マップを見るのがよいだろう。そこで、まず「人口マップ」を見ることとしこれをクリックすると、次に「人口構成」「人口増減」「人口の自然増減」「人口の社会増減」「新卒者就職・進学」「将来人口推計」「人口メッシュ」「将来人口メッシュ」が出てくる。人口といってもかなり多面的な見地から見るができるのわかる。ここでは「人口構成」を見ることとし、これをクリックすると地域を指定するために地図が出てくるので、左上で施設または住所を入力し検索すれば、調べたい地域（市区町村単位）を画面に出すことができる。または右側に都道府県、市区町村を入力するところがあるので、ここに入力しその下の「市区町村単位で表示する」を指定すれば、同様に画面に出すことができる。ここでは大学のある千代田区を見ることにする。表示するスケールは、「全国を表示する」「都道府県単位で表示する」「市区町村単位で表示する」で指定できる。次に右側で表示年を指定する。年次は1980年から将来予測の2045年まで、データは国勢調査をもとにしているの5年ごとになっている。ここでは2020年を選択し、「人口構成関係データを図表で見る」で人口ピラミッドを選択する。すると2020年と2045年の人口ピラミッドが映し出される。右側に「表示年を変更する」があるので、ここで左側と右側の人口ピラミッドの年次を変更することができる。ここでは1980年と2020年を比較してみると、千代田区では、20年間に15～19歳、20～24歳の若年の生産年齢人口が大幅に減少したことがわかる。一方で65歳以上の老年人口はさほど増えていな

いことがわかる（図9-1参照）。次に左上の×をクリックして画面を戻し、今度は人口推移を選択してみよう。1980年から2045年の推計値までの折れ線グラフで時間による推移がわかる。これを見ると千代田区の人口は、1995年を底としそれ以降増加に転じ、とくに2010年以降人口増加傾向が顕著になったことがわかる。ドーナツ化現象で都心部の人口減少が顕著であったのが、この時期より都心部の再開発が進み、人口の都心回帰が言われるようになったことがデータからも理解できる。

今度は、地域を把握する手段として産業構造を見てみよう。リーサスのトップページから「産業構造マップ」を選択し、「全産業」「全産業の構造」を選択する。画面右側の「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で指定する」を選び、東京都千代田区を選択する。表示年は少し古いが2016年が最新なのでこれを選択し、「表示内容を指定する」でまずは「企業数」を選択し、表示分類を「中分類で見る」を選択する。そしてグラフは「横棒グラフで割合を見る」の方が見やすい。すると横棒グラフで中分類別のグラフが示されるが、右側で「表示順を指定する」を見ると、産業分類順と割合順で見ることができるようになる。グラフは指定地域（千代田区）、東京都、全国の3つの横棒グラフが出てくるので、比較しやすい方を選べばよい。このグラフによれば千代田区は「学研究、専門・技術サービス業」の占める割合が20%を超え、東京都の3倍弱、全国の4倍もの割合を占めており、全国的に見ても高度な専門性の高い業種が集積していることがわかる（図9-2参照）。比較するために京浜工業地帯の一部である大田区を見てみると、企業数では「卸売業、小売業」の20.1%に次ぎ「製造業」が17.9%と

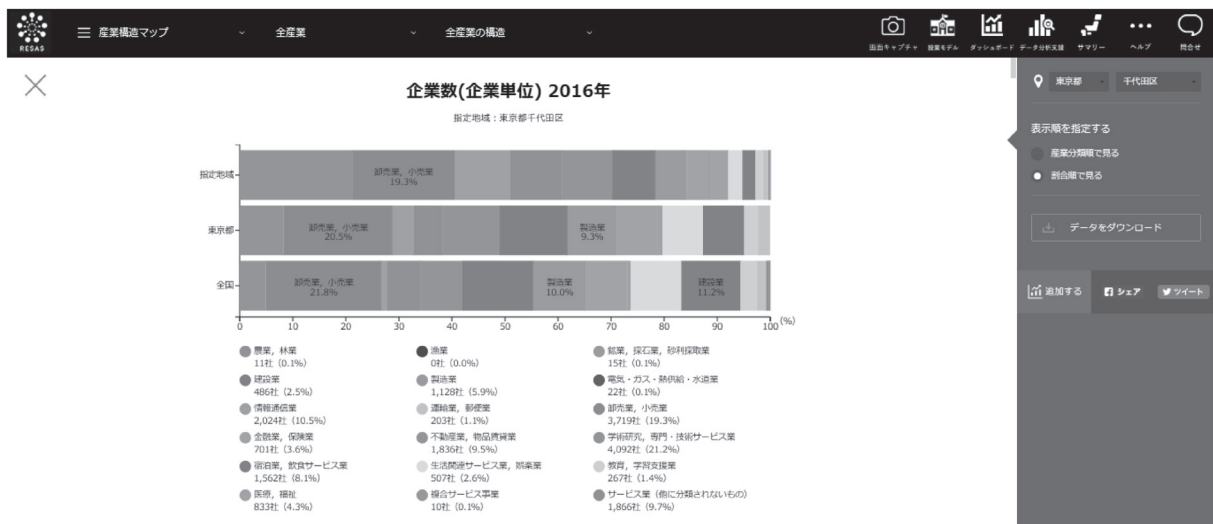


図9-2 企業数で見た千代田区の産業構造 2016年

多く、製造業は東京都全体の割合の倍近くとなっていることがわかる。一方で「学術研究、専門・技術サービス業」は3.9%（グラフ上にカーソルをあてると数値が示される）と千代田区と比較しほぼ5分の1にしかならないことがわかる。この他表示内容は従業者数、売上高、付加価値額を企業単位と事業所単位で見ることができ、また時系列単位でも見ることができるので、これらの指標を駆使したり、他の地域との比較をすれば、市区町村単位ではあるがかなり詳細に地域の特質や地域の課題等を把握し考察することができよう。

リーサスの項目はかなり多岐にわたり、人口や産業構造以外にも前述の通り様々な項目があるので、しっかりと目的を定めて活用することが必要である。ぜひ、時間のある時にでも様々な項目を試していただきたい。また、リーサスのグラフ等を使ってレポートを課題として課す場合には、画面上の「画面キャプチャー」を使えば画面のコピーができるが、グラフが大きくて画面に収まりきれないので、その場合には画面の右上の最も右上のたて3点のマークをクリックすれば、ズームがあるのでこれで調整することができる。

さらに、リーサスには画面右上に「授業モデル」があり、これをクリックすると授業実践例があるので、これも参考にしていきたい。

#### 4 おわりに

今回は中学社会科または高校地理総合で活用できるWebサイトをいくつか紹介したが、もちろんここで取り上げたもの以外にも、現在は非常に多くの地理情報に関するサイトが存在するので、これらを効率的に活用しアクティブ・ラーニングを意識した授業づくりができるようになってきている。また、リーサスは授業実践

例を検索することもでき、社会科、地理授業以外での実践例もあるので、大いに参考にしたい。

ただし、教員として注意しなければならないのは、これらのサイトはあくまで生徒の考察や理解を助ける手段であり、サイトの使い方を教えることが目的ではないということである。サイトの使い方を教えるだけで満足してはならない。授業の目的は地域の実情を理解し、そこから地域の課題を見出し、課題解決のためにはどうすればよいのかを生徒が自発的に考察し、そして実行につなげることであるのを、教員は忘れてはならない。

#### (参考資料)

- ・ 文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編 平成30年7月』 35、37P
- ・ 国土地理院「地理院地図 GSI Maps」  
<https://maps.gsi.go.jp/>
- ・ 埼玉大学 谷謙二研究室  
<https://ktgis.net/service/uonzu/index.html>
- ・ 東京書籍  
[https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/digi-contents/chu/shakai/shakai\\_c\\_025\\_00/start.html](https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/digi-contents/chu/shakai/shakai_c_025_00/start.html)
- ・ earth：地球の風、天気、海の状況地図  
<https://earth.nullschool.net/jp/>
- ・ 今昔マップ on the web <https://ktgis.net/kjmapw/>
- ・ 地理@沼津高専 - ウェブ地図  
<https://user.numazu-ct.ac.jp/~tsato/webmap/>
- ・ RESAS 地域経済分析システム  
<https://resas.go.jp/#/13/13101>